２　大震災などの災害への備え

（１）備蓄や防災用具などの用意
（２）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
（３）備蓄量
（４）家具類の転倒・落下・移動防止対策
（５）対策をしていない理由
（６）地域の３種の避難場所とその意味の認知
（７）大規模災害時の避難生活場所

２　大震災などの災害への備え

（１）備蓄や防災用具などの用意

問４　あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は１つだけ）。

■【備蓄・買い置きあり】は約７割

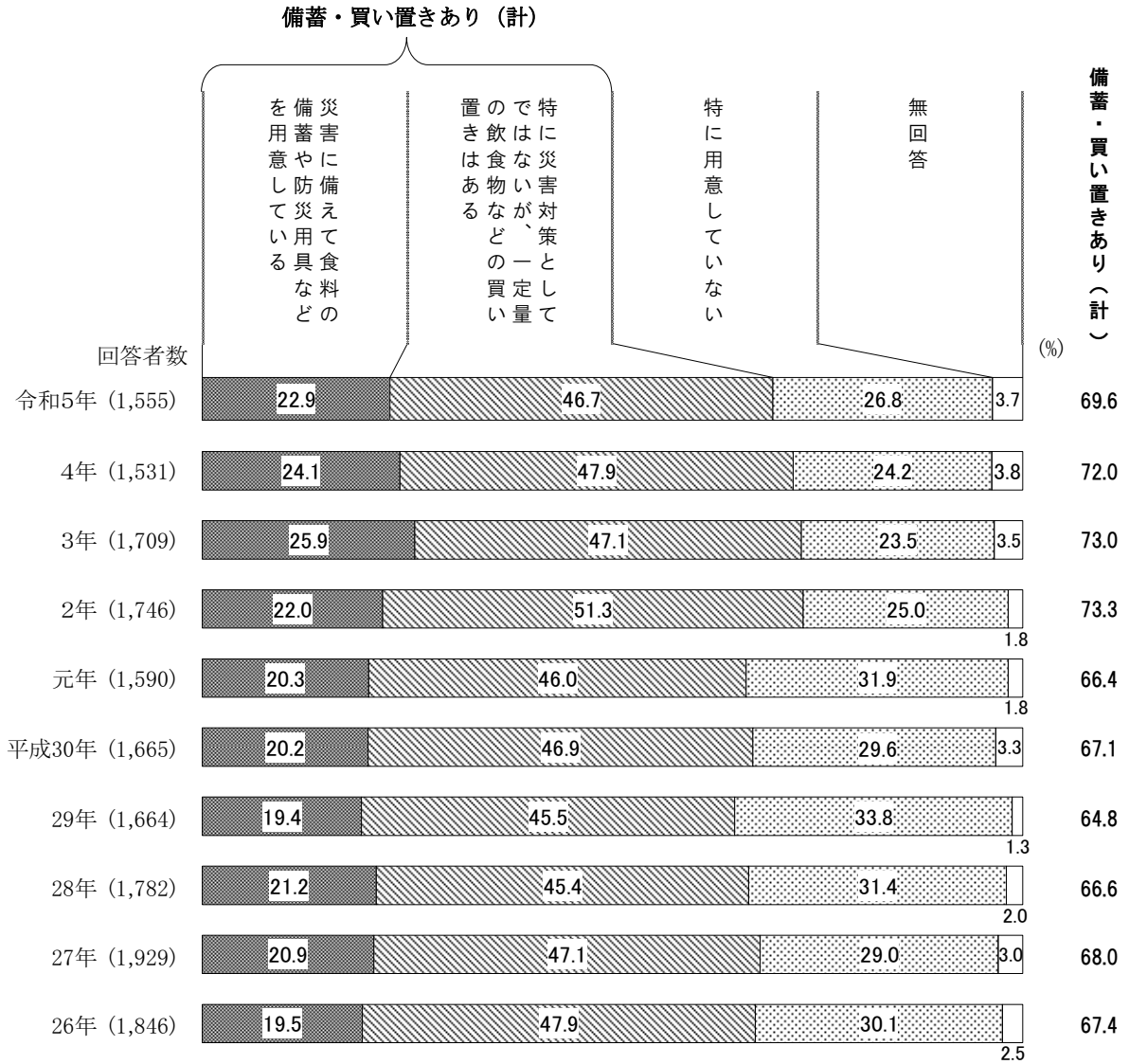
ア　単純集計・経年比較／備蓄や防災用具などの用意

（ア）災害に備えての準備状況については、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が46.7％で最も高く、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が22.9％となっている。これらを合わせた【備蓄・買い置きあり】は69.6％となっている。

（イ）災害に備えて「特に用意していない」は26.8％となっている。

（ウ）前回調査と比較すると、【備蓄・買い置きあり】は大きな違いはみられないものの、令和２年度調査以降は漸減傾向となっている。

図２－１－１　経年比較／備蓄や防災用具などの用意



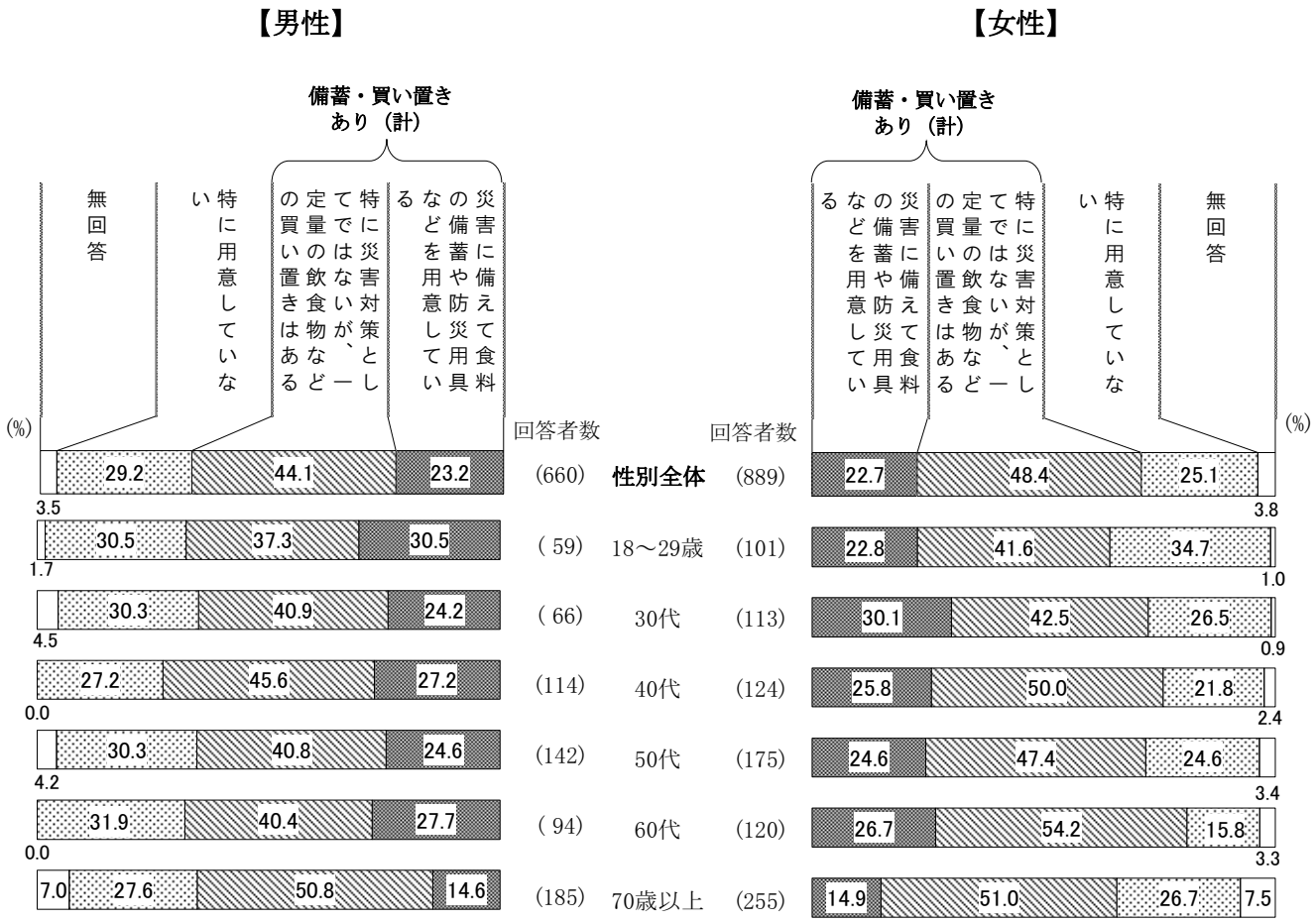
イ　クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意

（ア）性別でみると、【備蓄・買い置きあり】は女性（71.1％）の方が男性（67.3％）より3.8ポイント高くなっている。

（イ）性・年代別でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は、男性の18～29歳が30.5％で最も高く、次いで女性の30代（30.1％）となっている。また【備蓄・買い置きあり】は、女性の60代が80.8％で最も高く、次いで女性の40代（75.8％）となっている。

（ウ）「特に用意していない」を性・年代別でみると、女性の18～29歳が34.7％で最も高くなっている。

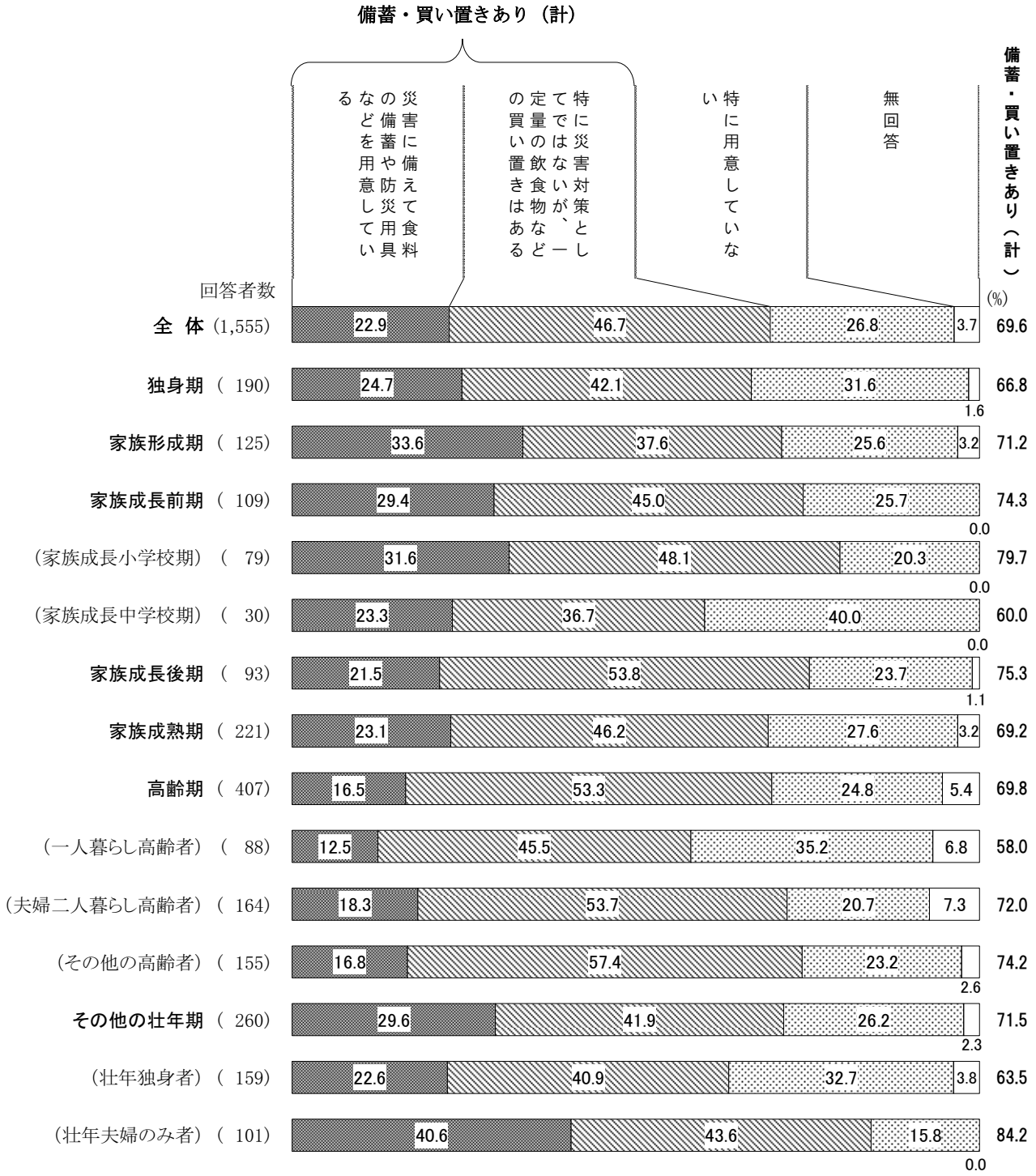
図２－１－２　性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ウ　クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意

ライフステージ別でみると、【備蓄・買い置きあり】は〈家族成長後期〉が75.3％で最も高く、次いで〈家族成長前期〉（74.3％）、〈その他の壮年期〉（71.5％）となっている。なお、詳細区分でみると、〈(壮年夫婦のみ者)〉が84.2％と高くなっている。一方、〈独身期〉が66.8％で最も低いが、詳細区分でみると〈(一人暮らし高齢者)〉が58.0％で最も低くなっている。

図２－１－３　ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



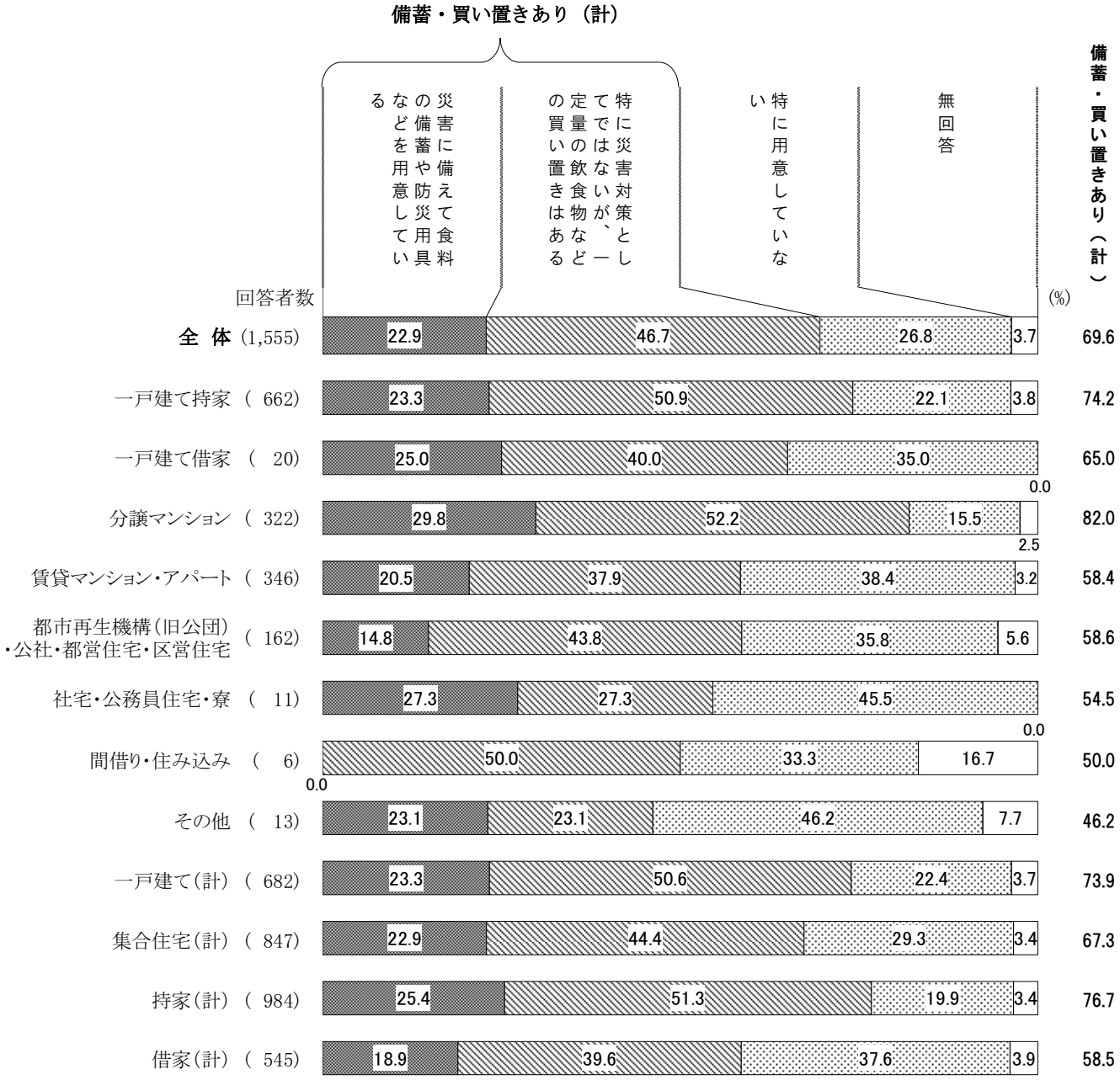
エ　クロス集計・住居形態別／備蓄や防災用具などの用意

（ア）住居形態別でみると、【備蓄・買い置きあり】は〈分譲マンション〉が82.0％で最も高く、次いで〈一戸建て持家〉（74.2％）となっている。一方、「特に用意していない」は〈賃貸マンション・アパート〉が38.4％で最も高くなっている。

（イ）住宅の戸建て集合別では、〈一戸建て（計)〉（73.9％）の方が〈集合住宅（計)〉（67.3％）より6.6ポイント高くなっている。

（ウ）住宅の所有形態別では、〈持家（計)〉（76.7％）の方が〈借家（計)〉（58.5％）より18.2ポイント高くなっている。

図２－１－４　住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、回答数が少ないため参考値。

（２）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

問４で「１　災害に備えて～」または「２　特に災害対策としてでは～」とお答えの方に
問４－１　備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください
（○はあてはまるものすべて）。

■１位「水」（９割）、２位「食料」（約９割）、３位「あかり」（７割台半ば）で、前回調査と同順位

ア　単純集計・経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

（ア）【備蓄・買い置きあり】の内容は、高い順に主に以下のとおりとなっている。

①「水」（90.1%）

②「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など）」（89.6%）

③「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（75.0%）

④「簡易トイレ」（51.7%）

⑤「電池・予備バッテリー」（51.6%）

（イ）平成26年度調査以降、「水」「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など）」「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」が継続して上位３項目に挙げられている。

（ウ）前回調査と比較すると、「簡易トイレ」（33.8%→51.7%）が17.9ポイント増加している。逆に、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（79.9%→75.0%）が4.9ポイント、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」（50.5%→45.9%）が4.6ポイント減少している。

図２－２－１－①　経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

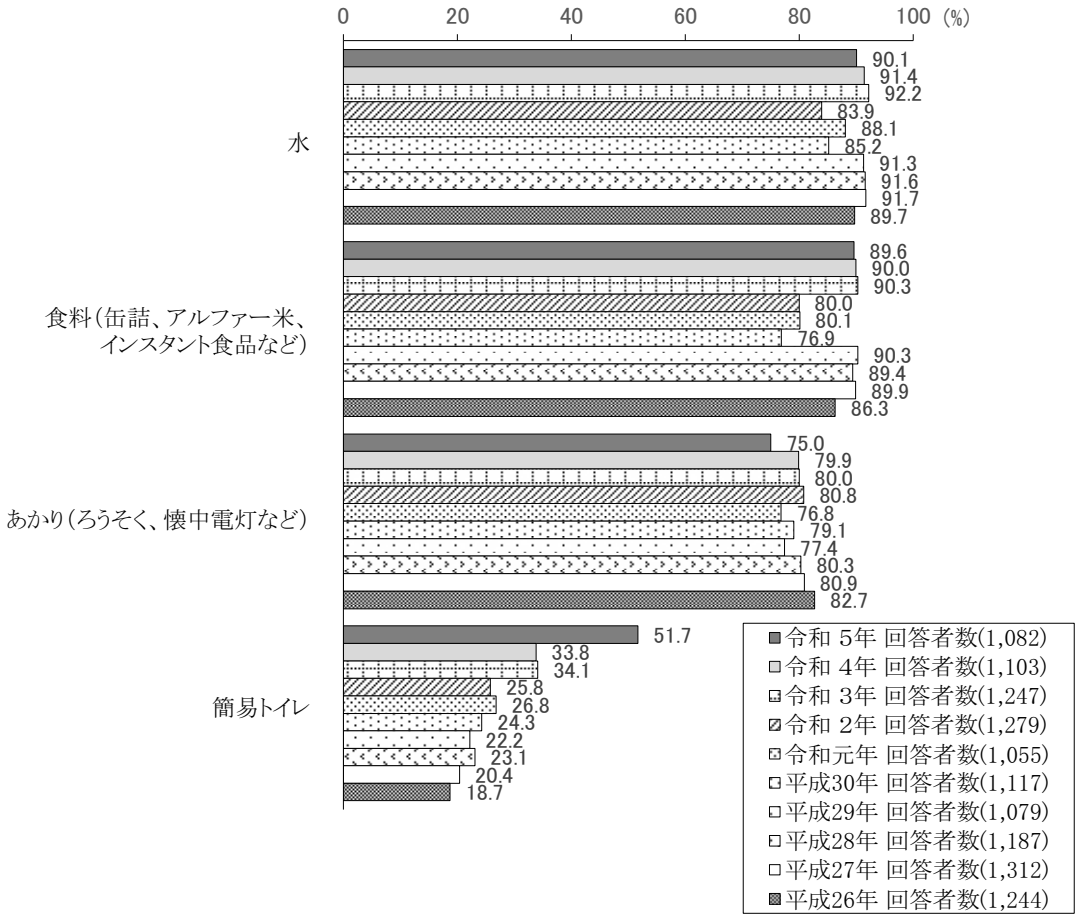


図２－２－１－②　経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

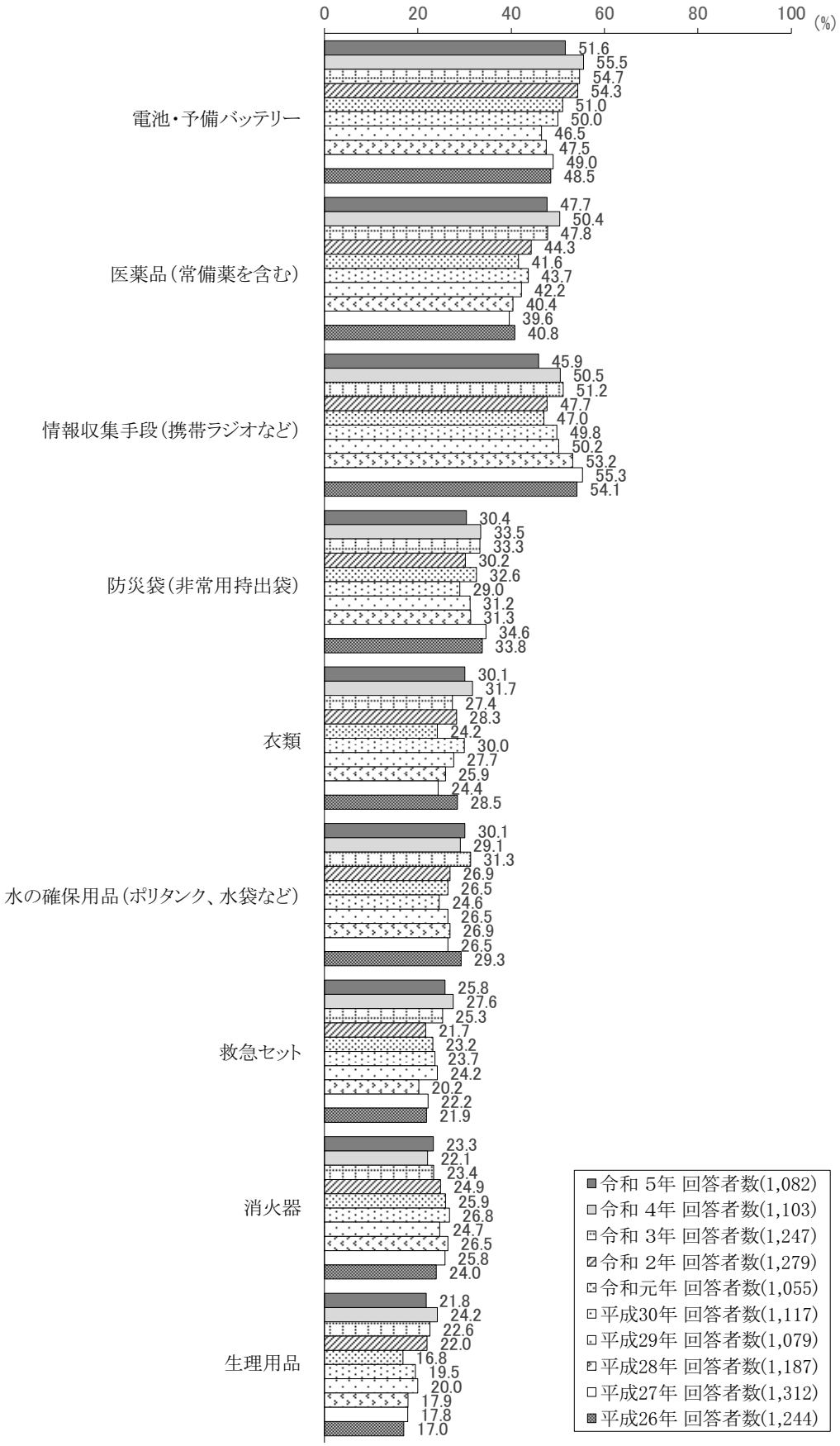
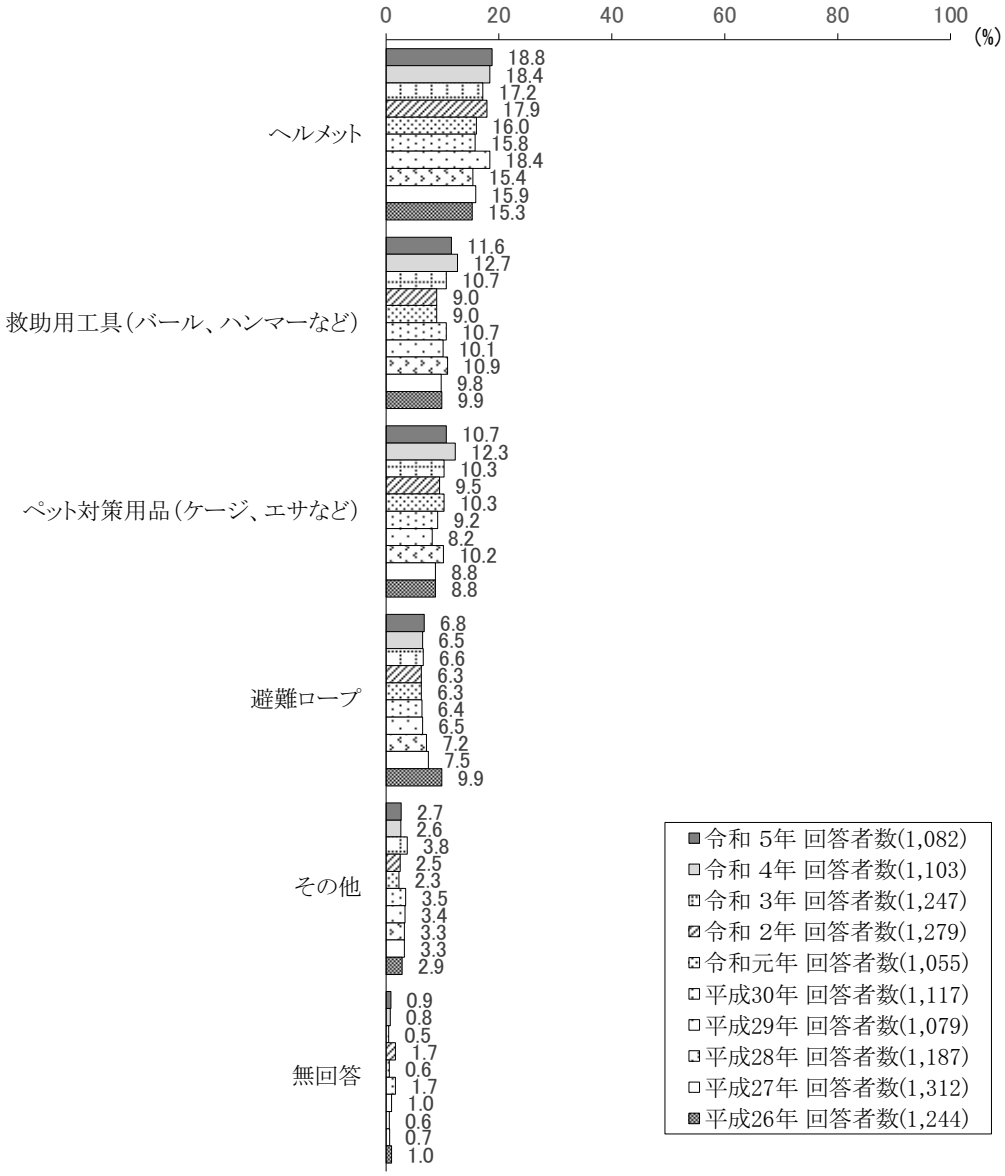


図２－２－１－③　経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



イ　クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位８項目）

（ア）性別にみたときに、男女で３ポイント以上差がある取り組み

a　男性の方が女性より３ポイント以上高い項目

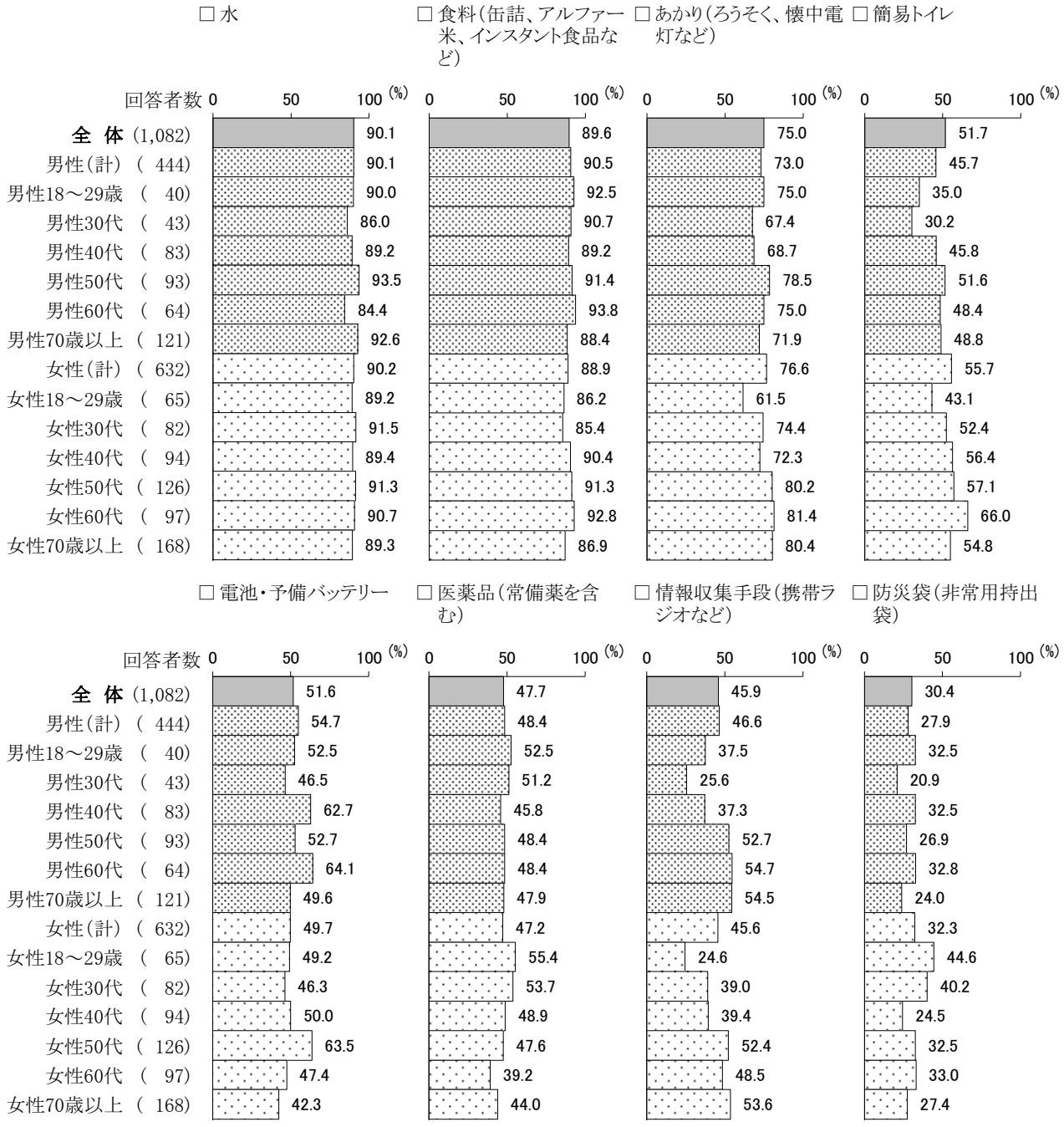
「電池・予備バッテリー」（＋5.0ポイント）

b　女性の方が男性より３ポイント以上高い項目

「簡易トイレ」（＋10.0ポイント）、「防災袋（非常用持出袋）」（＋4.4ポイント）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（＋3.6ポイント）など

（イ）性・年代別でみると、「水」は男性の50代（93.5%）が最も高く「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など）」は男性の60代（93.8%）が最も高くなっている。また、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は女性の60代（81.4%）が最も高い一方で、女性の18～29歳（61.5%）で最も低く、その差は約20ポイントと大きく開いている。

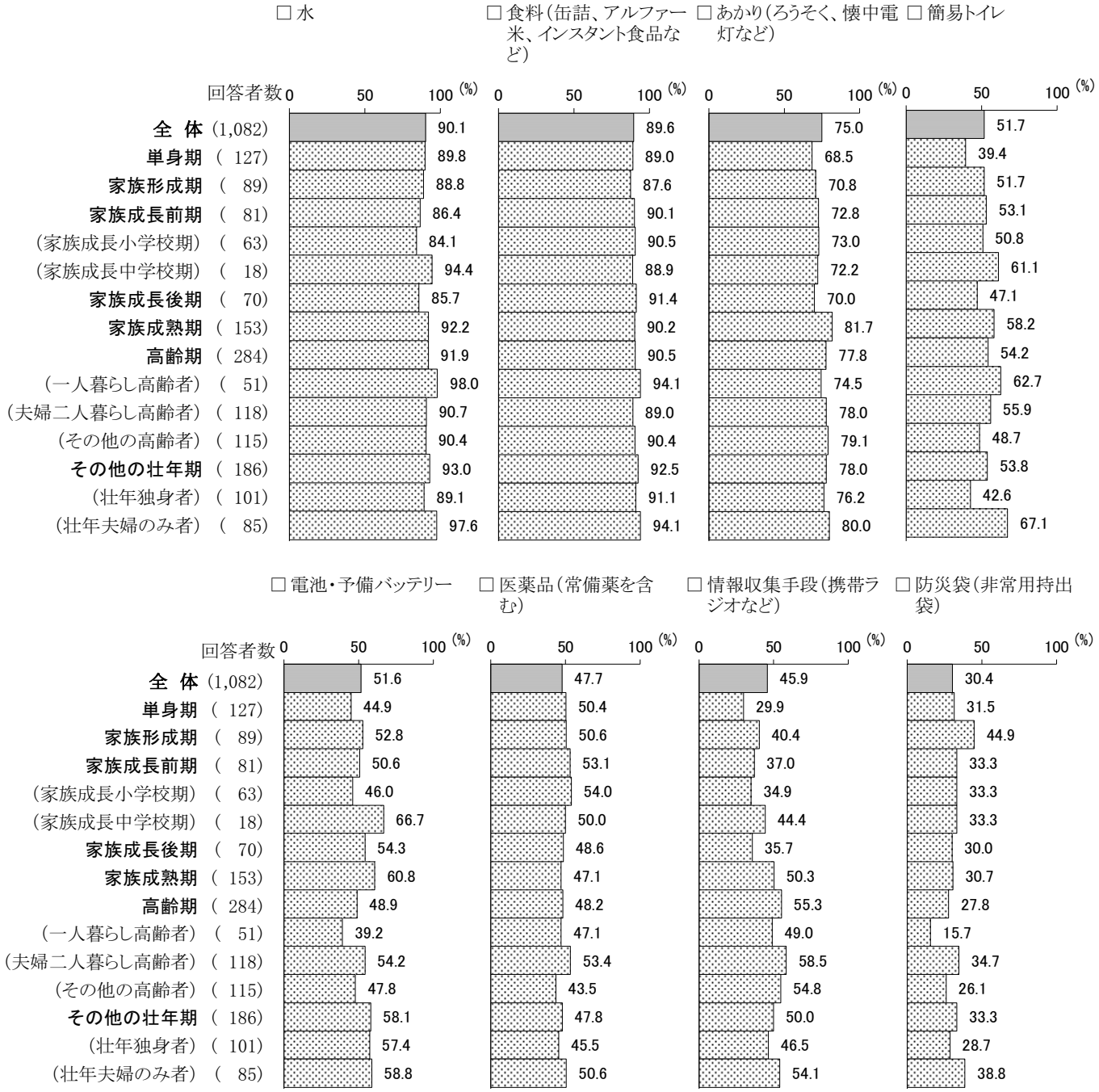
図２－２－２　性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位８項目



ウ　クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位８項目）

ライフステージ別にみると、詳細区分を除いたところでは、「水」（93.0%）と「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など）」（92.5%）は〈その他の壮年期〉で最も高く、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（81.7%）と「簡易トイレ」（58.2%）と「電池・予備バッテリー」（60.8%）は〈家族成熟期〉で他のステージに比べて高くなっている。

図２－２－３　ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位８項目



（３）備蓄量

問４－１で「１　水」、「２　食料」または「簡易トイレ」とお答えの方に

問４－１－１　あなたのご家庭では、「水」、「食料」、「簡易トイレ」の備蓄の量はどれくらいありますか。いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です（○はそれぞれ１つずつ）。

※　水は大人１人１日３リットル、簡易トイレは１人１日５回分で計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

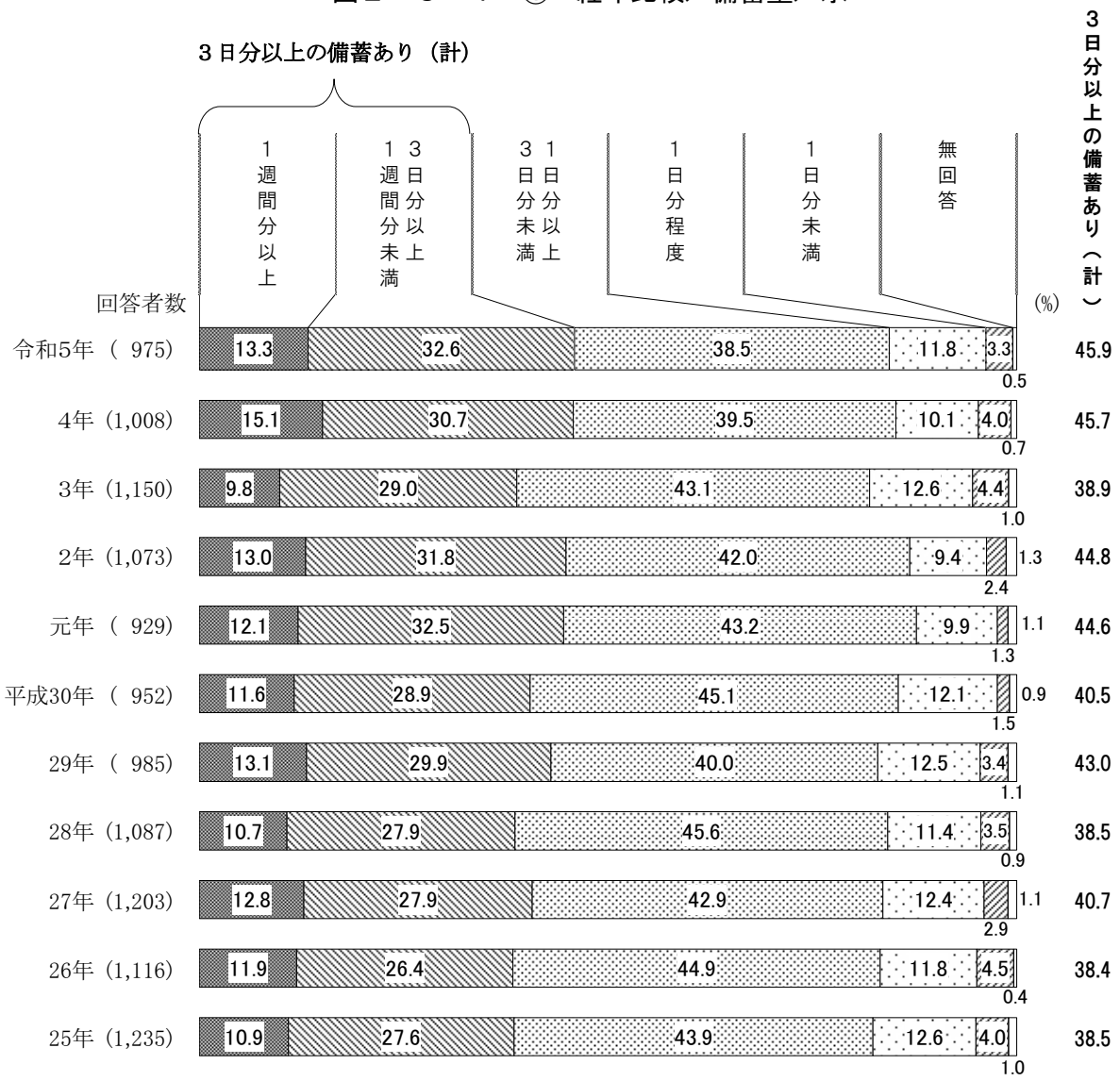
■【３日分以上の備蓄あり】は「水」が４割台半ば、「食料」が４割台半ば近く、「簡易トイレ」が３割

ア　単純集計・経年比較／備蓄量／水

（ア）「水」の備蓄量については「１日分以上３日分未満」が38.5％で最も高く、次いで「３日分以上１週間分未満」（32.6％）となっている。また、「３日分以上１週間分未満」と「１週間分以上」（13.3％）を合わせた【３日分以上の備蓄あり】は45.9％となっている。

（イ）水について前回調査と比較すると、【３日分以上の備蓄あり】は微増しており、本設問を開始した平成25年度調査以降で最も高い割合となっている。

図２－３－１－①　経年比較／備蓄量／水

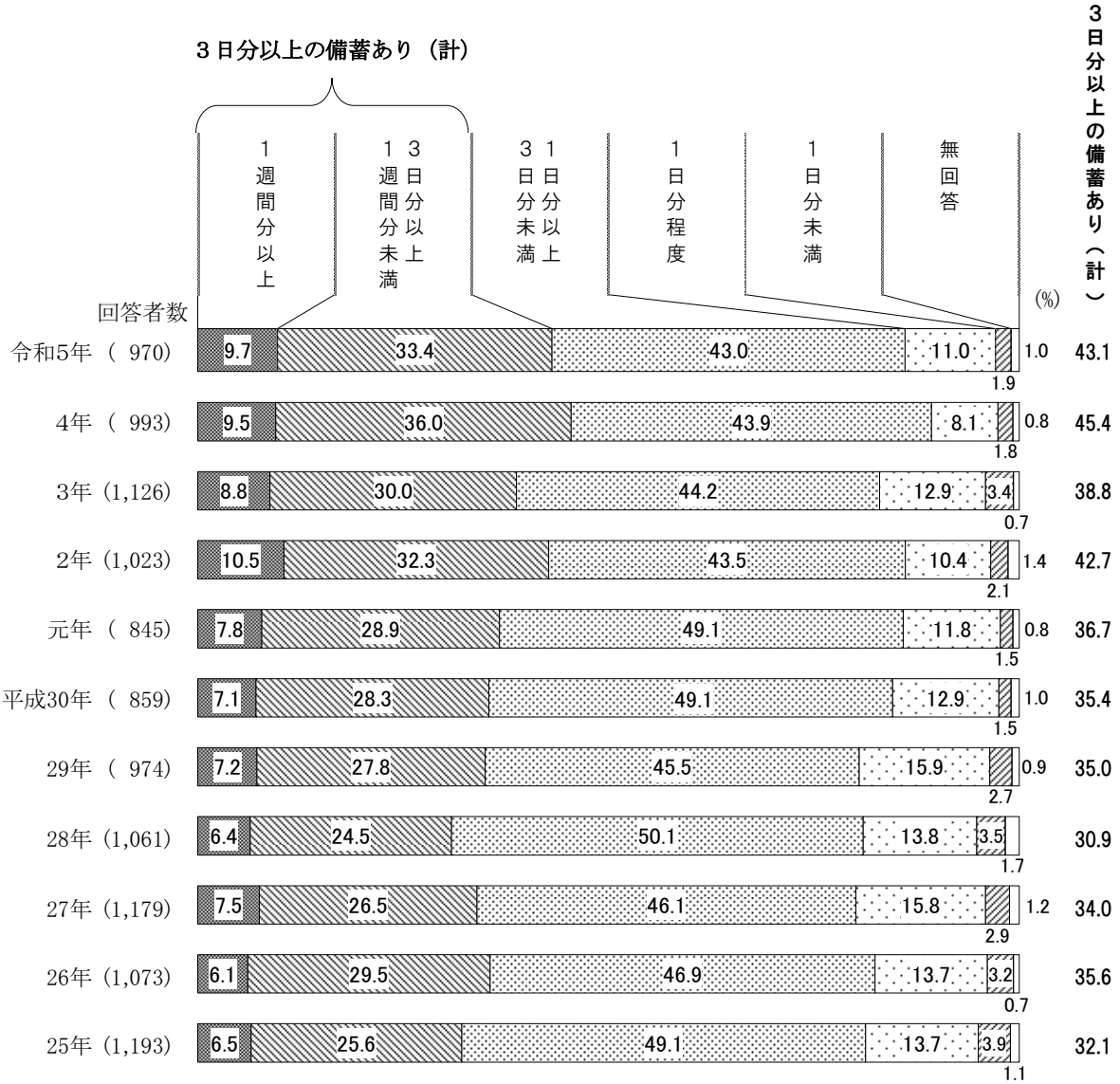


イ　単純集計・経年比較／備蓄量／食料

（ア）「食料（缶詰、アルファー米、インスタント食品など）」の備蓄量については、「１日分以上３日分未満」が43.0％で最も高く、次いで「３日分以上１週間分未満」（33.4％）となっている。また、「３日分以上１週間分未満」と「１週間分以上」（9.7％）を合わせた【３日分以上の備蓄あり】は43.1％となっている。

（イ）食料について前回調査と比較すると、【３日分以上の備蓄あり】は微減しているものの、本設問を開始した平成25年度調査以降で前回に次いで高い割合となっている。

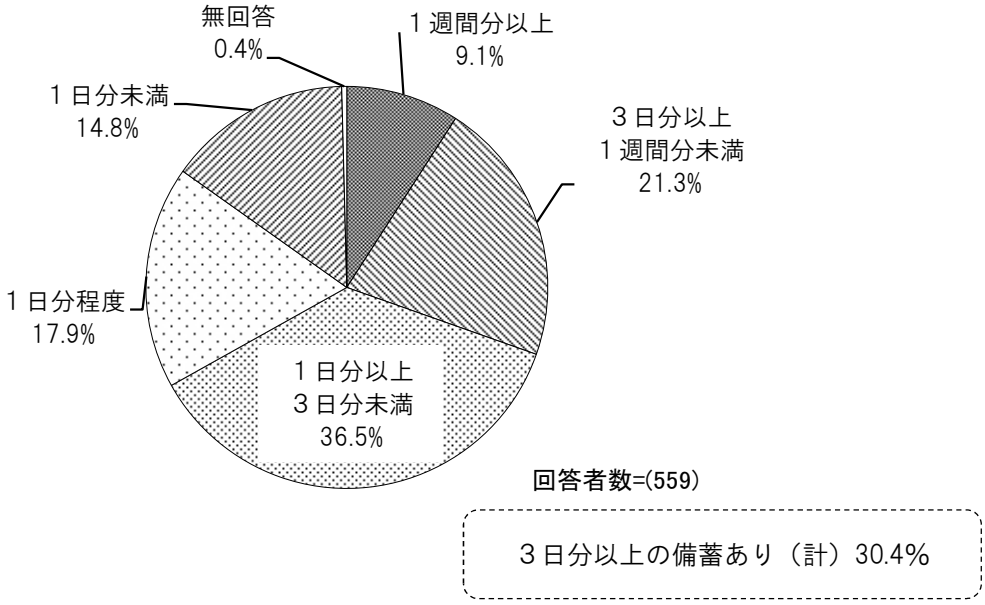
図２－３－１－②　経年比較／備蓄量／食料



ウ　単純集計／備蓄量／簡易トイレ

「簡易トイレ」の備蓄量については、「１日分以上３日分未満」が36.5％で最も高く、次いで「３日分以上１週間分未満」（21.3％）となっている。また、「３日分以上１週間分未満」と「１週間分以上」（9.1％）を合わせた【３日分以上の備蓄あり】は30.4％となっている。

図２－３－１－③　備蓄量／簡易トイレ

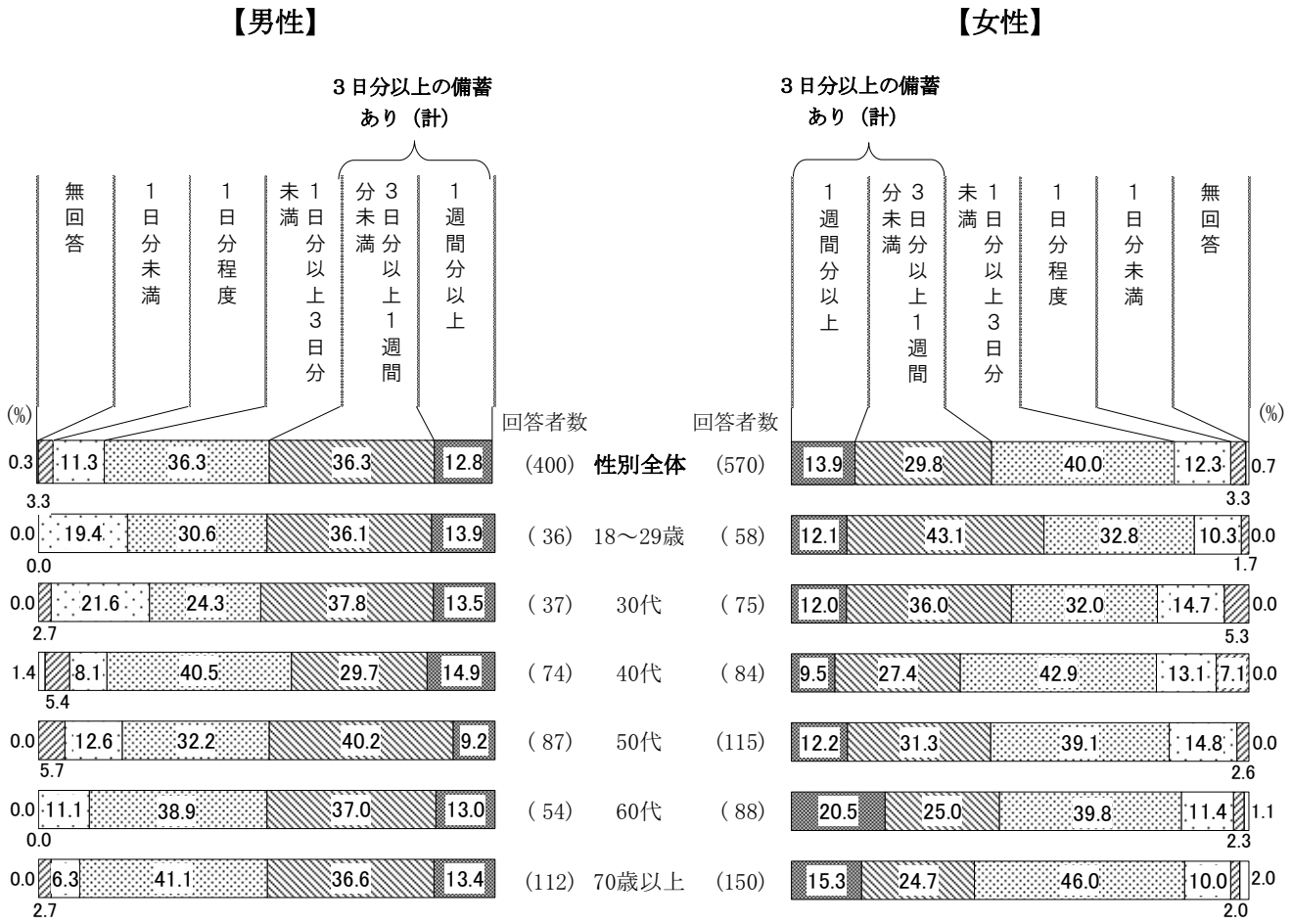


エ　クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／水

（ア）「水」の備蓄量を性別でみると、【３日分以上の備蓄あり】は男性（49.0％）の方が女性（43.7％）より5.3ポイント高くなっている。

（イ）性・年代別で【３日分以上の備蓄あり】をみると、女性の18～29歳が55.2％で最も高く、次いで男性の30代（51.4％）となっている。逆に、女性の40代が36.9％で最も低くなっている。また、「１日分未満」は女性の40代が7.1％で最も高くなっている。

図２－３－２－①　性別、性・年代別／備蓄量／水

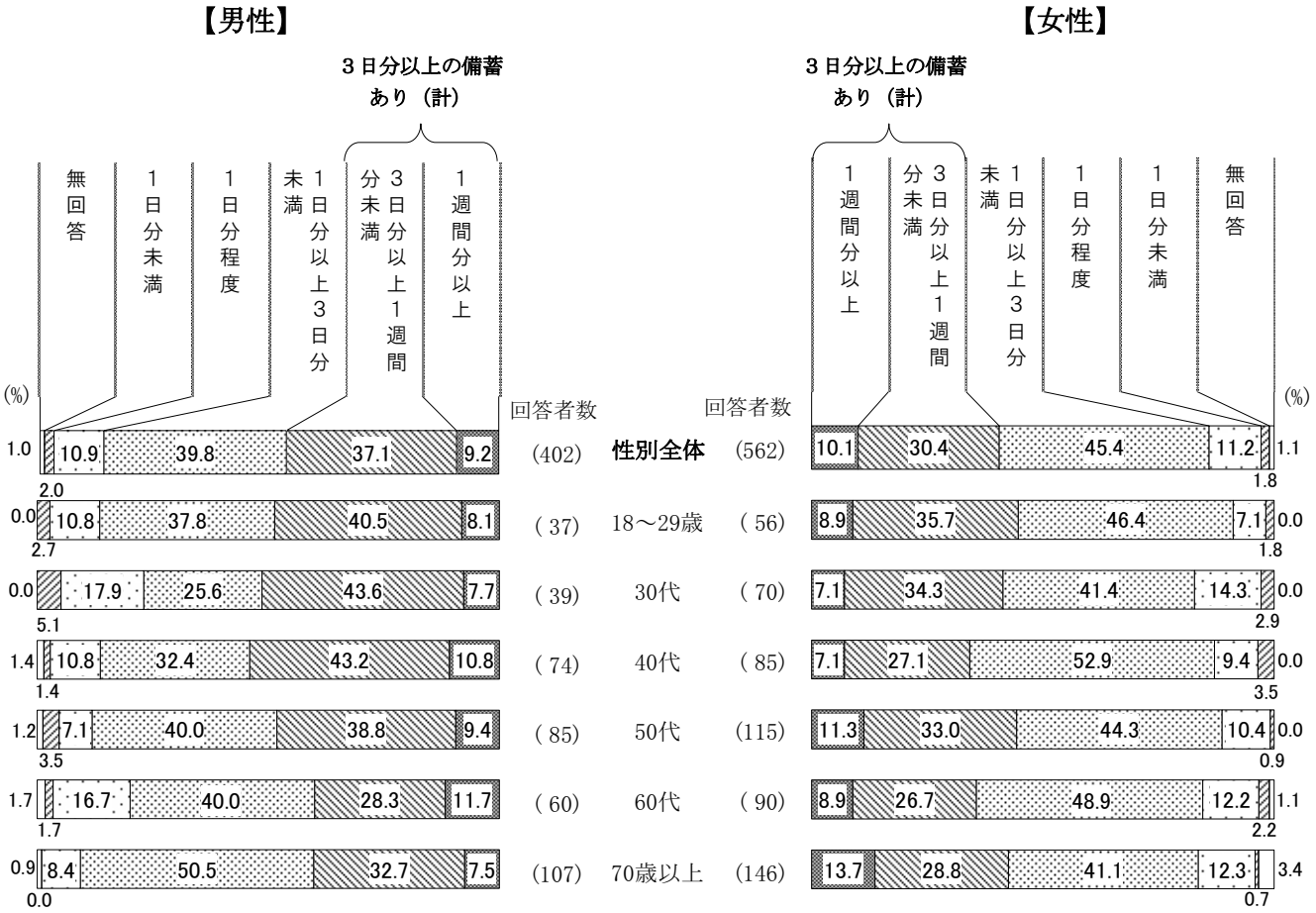


オ　クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／食料

（ア）「食料」の備蓄量を性別でみると、【３日分以上の備蓄あり】は男性（46.3%）の方が女性（40.5%）より5.8ポイント高くなっている。

（イ）性・年代別で【３日分以上の備蓄あり】をみると、男性の40代が54.0%で最も高く、次いで男性の30代（51.3%）となっている。逆に、女性の40代が34.1%で最も低くなっている。また、「１日分未満」は男性の30代が5.1%で最も高くなっている。

図２－３－２－②　性別、性・年代別／備蓄量／食料

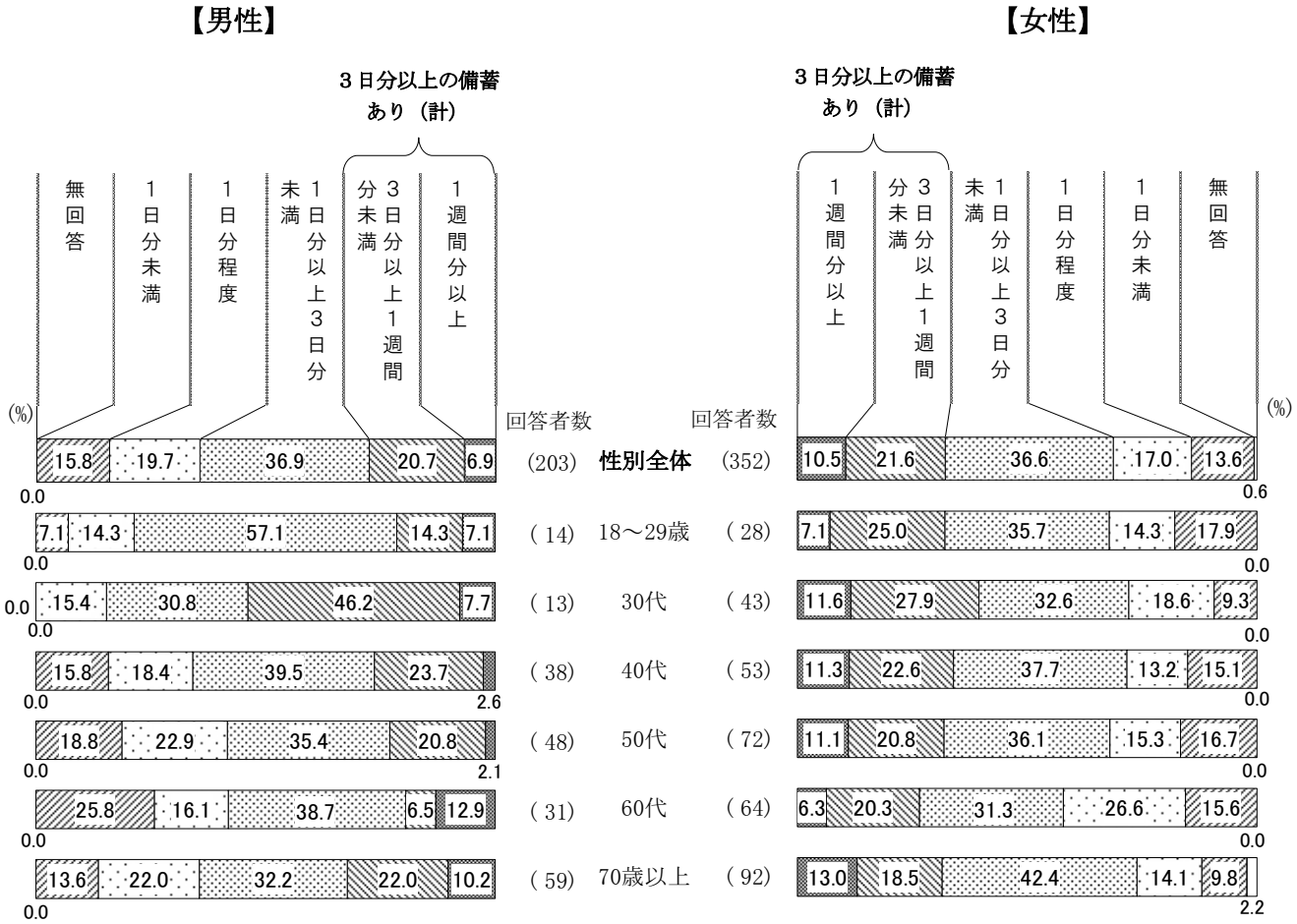


カ　クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／簡易トイレ

（ア）「簡易トイレ」の備蓄量を性別でみると、【３日分以上の備蓄あり】は女性（32.1%）の方が男性（27.6%）より4.5ポイント高くなっている。

（イ）性・年代別で【３日分以上の備蓄あり】をみると、女性の30代が39.5%で最も高く、次いで女性の40代（34.0%）となっている。逆に、男性の60代が19.4%で最も低くなっている。また、「１日分未満」は男性の60代が25.8%で最も高くなっている。

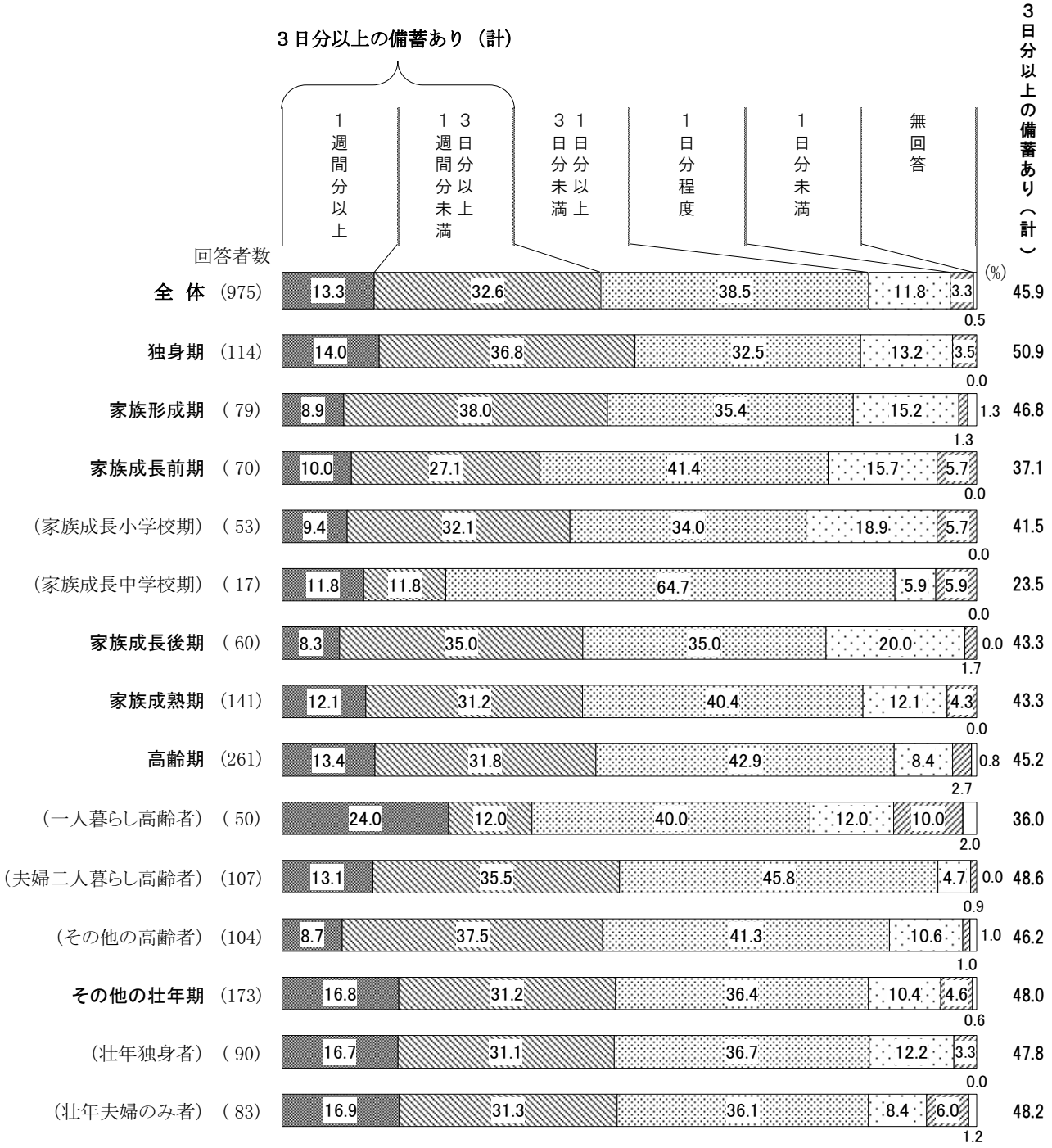
図２－３－２－③　性別、性・年代別／備蓄量／簡易トイレ



キ　クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／水

「水」の備蓄量をライフステージ別でみると、【３日分以上の備蓄あり】は〈独身期〉が50.9％で最も高く、次いで、〈その他の壮年期〉が48.0％となっている。逆に〈家族成長前期〉が37.1％で最も低くなっている。

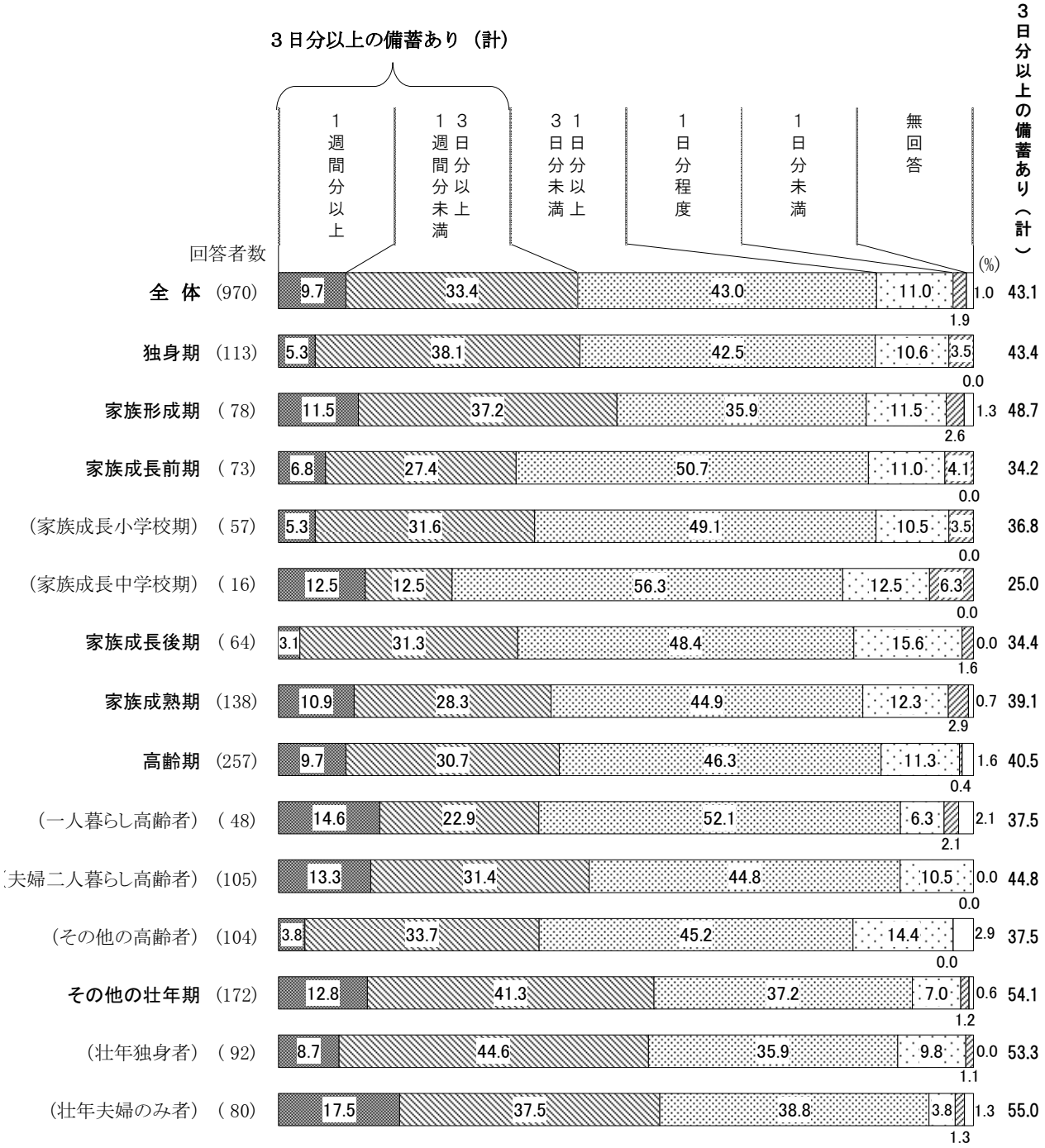
図２－３－３－①　ライフステージ別／備蓄量／水



ク　クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／食料

「食料」の備蓄量をライフステージ別でみると、【３日分以上の備蓄あり】は〈その他の壮年期〉が54.1％で最も高く、次いで、〈家族形成期〉が48.7％となっている。逆に〈家族成長前期〉が34.2％で最も低くなっている。

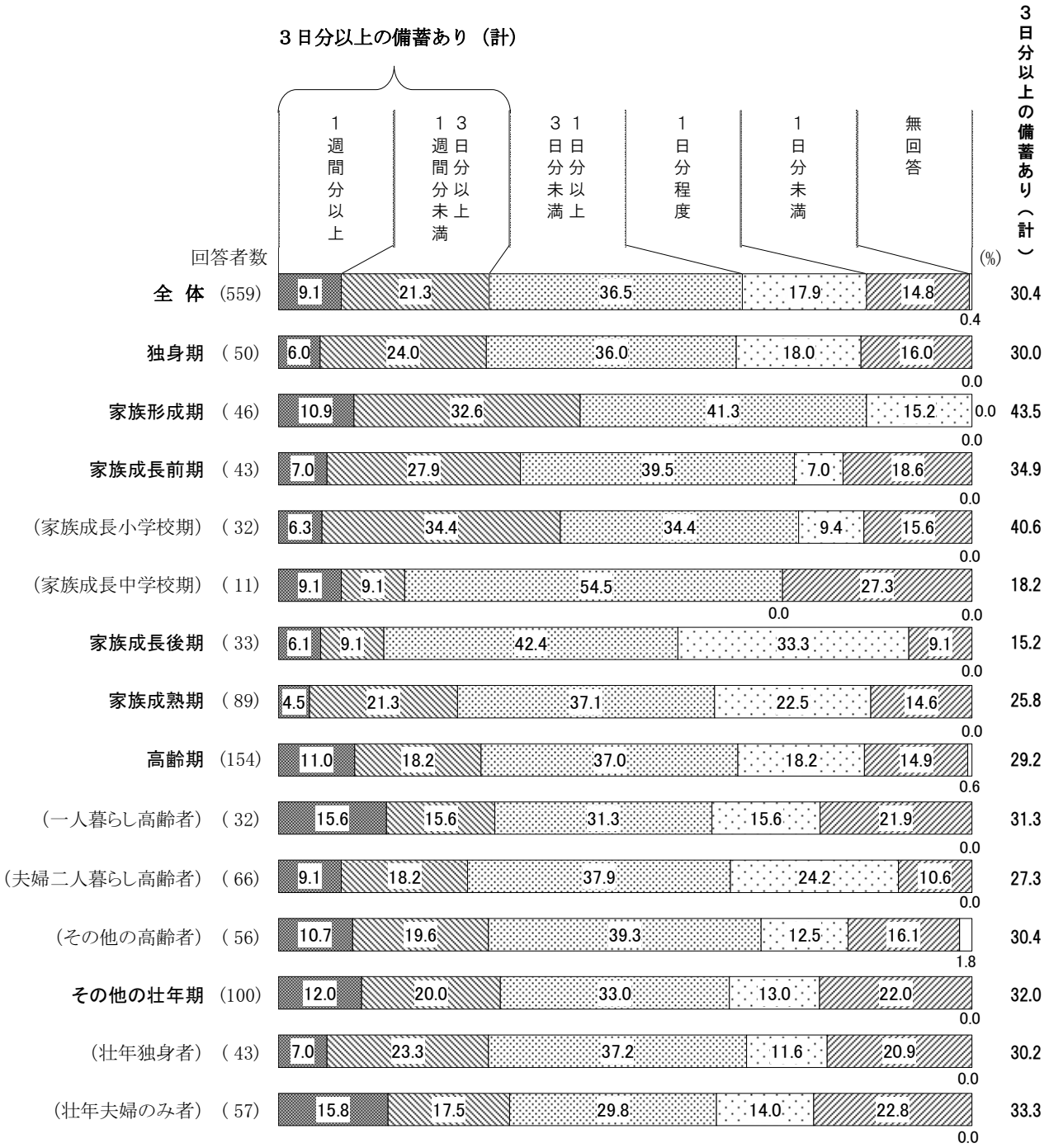
図２－３－３－②　ライフステージ別／備蓄量／食料



ケ　クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／簡易トイレ

「簡易トイレ」の備蓄量をライフステージ別でみると、【３日分以上の備蓄あり】は〈家族形成期〉が43.5％で最も高く、次いで、〈家族成長前期〉が34.9％となっている。逆に〈家族成長後期〉が15.2％で最も低くなっている。

図２－３－３－③　ライフステージ別／備蓄量／簡易トイレ



（４）家具類の転倒・落下・移動防止対策

問５　あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか（○は１つだけ）。
※　家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

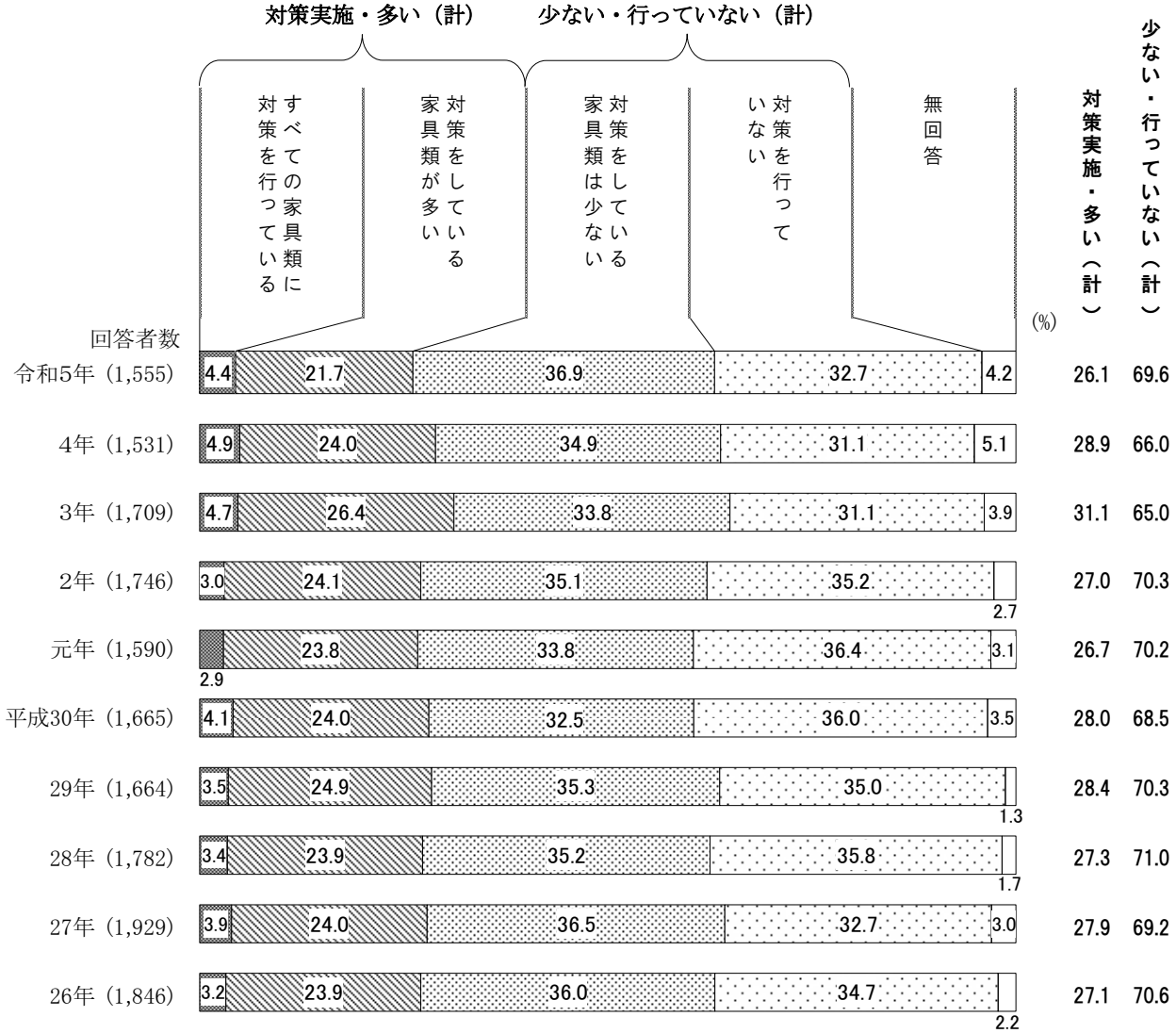
■【少ない・行っていない】が約７割で、【対策実施・多い】が２割台半ば

ア　単純集計・経年比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策

（ア）家具類の転倒・落下・移動防止対策について、「すべての家具類に対策を行っている」は4.4％で、これに「対策をしている家具類が多い」（21.7％）を合わせた【対策実施・多い】は26.1％となっている。一方、「対策をしている家具類は少ない」は36.9％で最も高く、これに「対策を行っていない」（32.7％）を合わせた【少ない・行っていない】は69.6％となっている。

（イ）前回調査と比較すると、【対策実施・多い】が2.8ポイント減少した。

図２－４－１　経年比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策

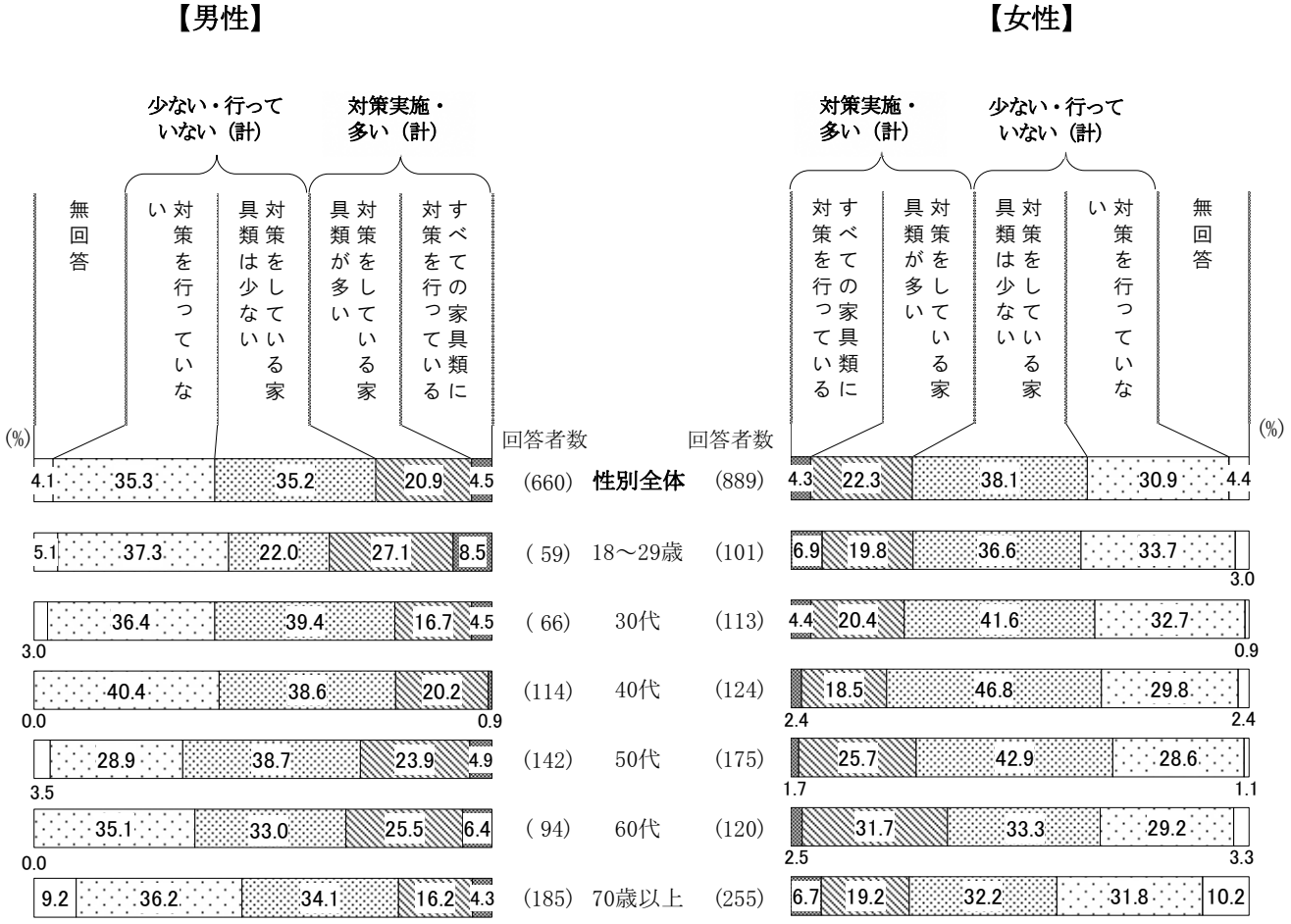


イ　クロス集計・性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策

（ア）性別では、特に大きな違いはみられない。

（イ）性・年代別でみると、【対策実施・多い】は、男性の18～29歳（35.6％）で最も高く、次いで、女性の60代（34.2％）、男性の60代（31.9％）となっている。逆に、男性の70歳以上が20.5％で最も低い割合となっている。

図２－４－２　性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策

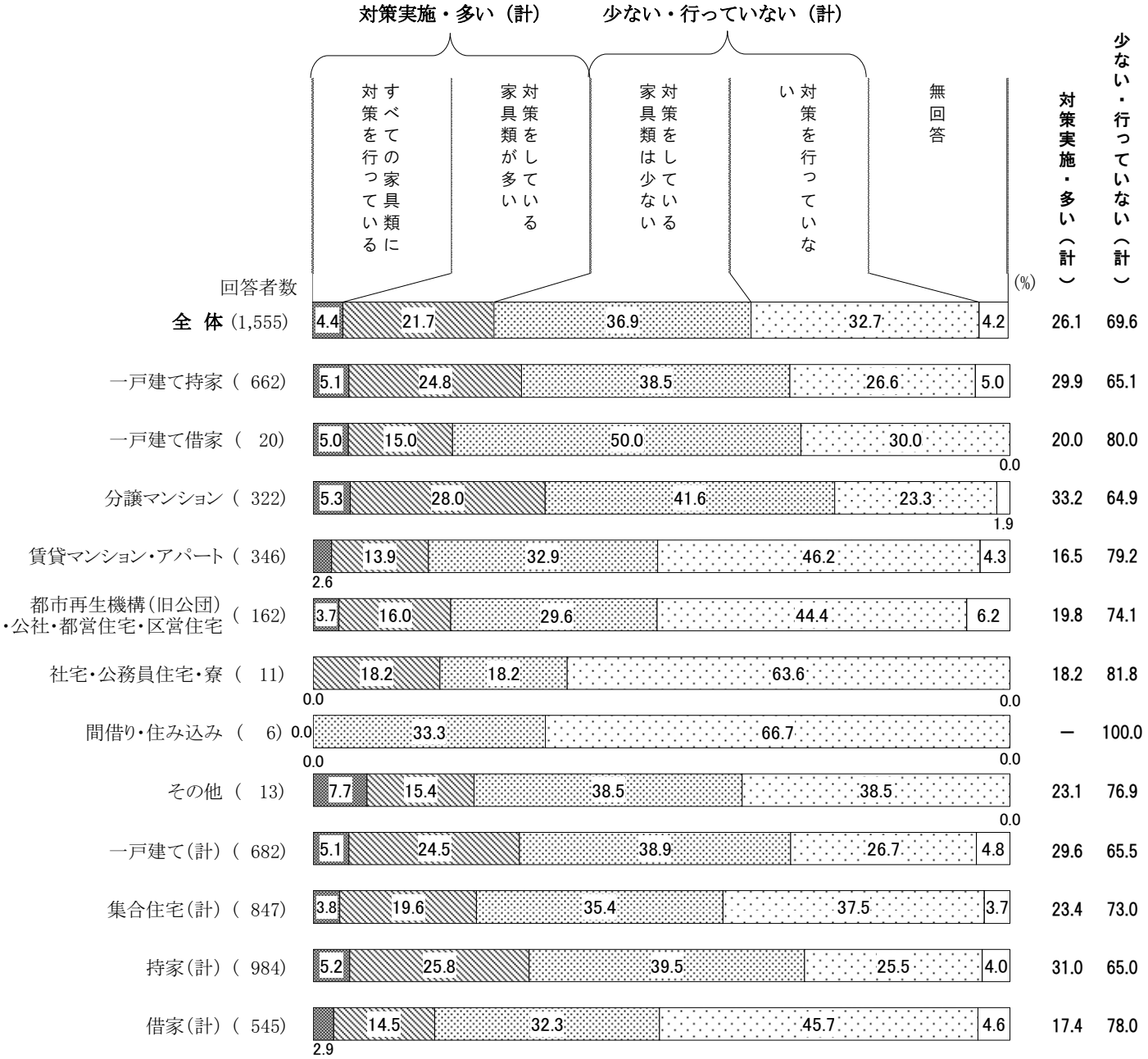


ウ　クロス集計・住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策

（ア）【対策実施・多い】を住宅の戸建て集合別にみると、〈一戸建て（計）〉（29.6%）の方が〈集合住宅（計）〉（23.4%）より6.2ポイント高くなっている。

（イ）【対策実施・多い】を住宅の所有形態別にみると、〈持家（計）〉（31.0%）の方が〈借家（計）〉（17.4%）より13.6ポイント高くなっている。

図２－４－３　住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値。

（５）対策をしていない理由

問５で「３　対策をしている家具類は少ない」または「４　対策を行っていない」とお答えの方に
問５―１　どのような理由からですか（○はあてはまるものすべて）。

■「面倒である」が３割半ば超、「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」が２割超

ア　単純集計・経年比較／対策をしていない理由

（ア）家具類への対策を【少ない・行っていない】という人にその理由を聴いたところ、「面倒である」が37.4％で最も高く、次いで「（賃貸のため）勝手に取り付けられない」（21.2％）、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」（19.7％）、「建物の壁にキズをつけたくない」（19.6％）などとなっている。

（イ）前回調査と比較すると、「面倒である」が8.5ポイント増加し、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」が8.3ポイント減少している。

図２－５－１－①　経年比較／対策をしていない理由

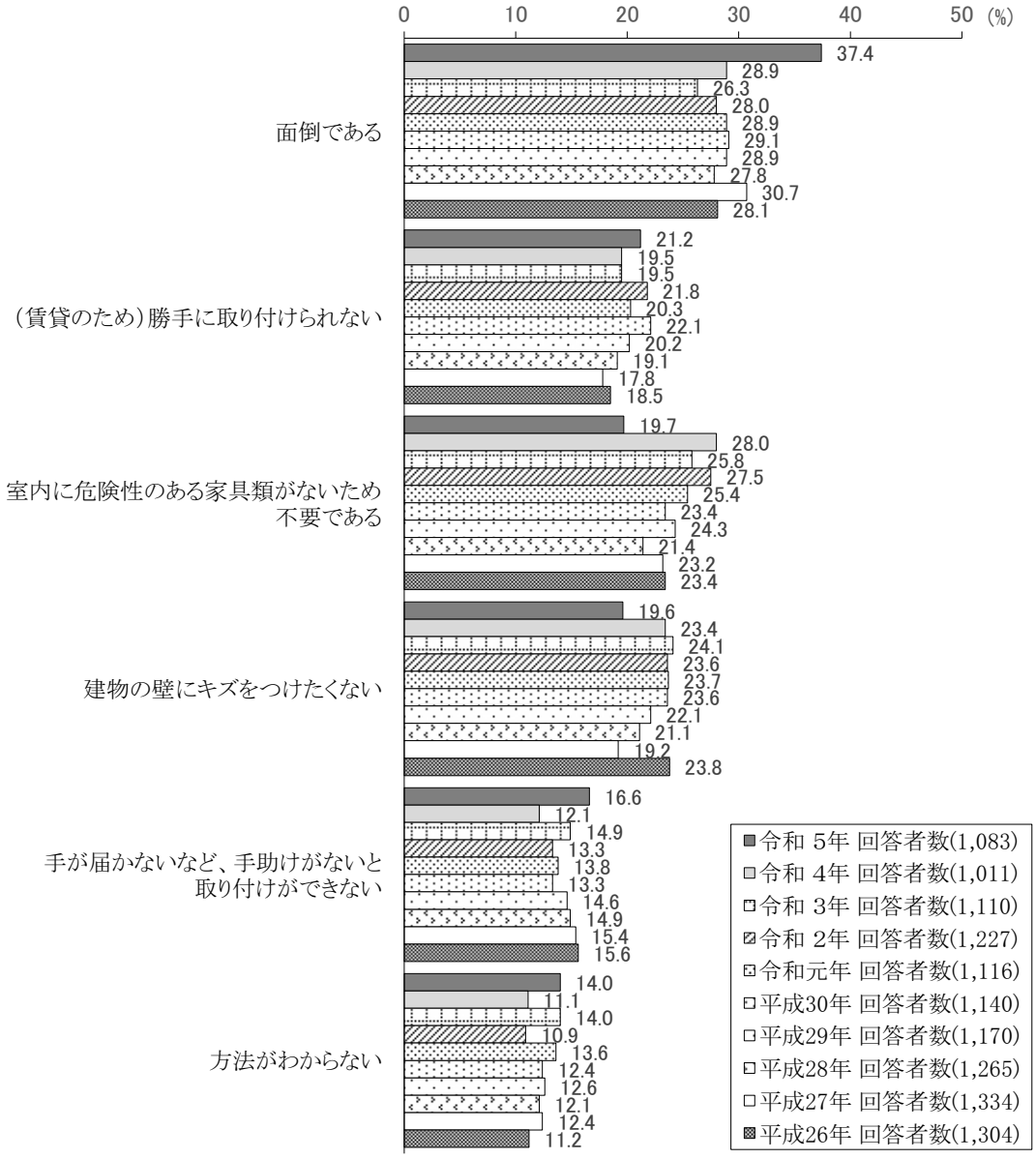
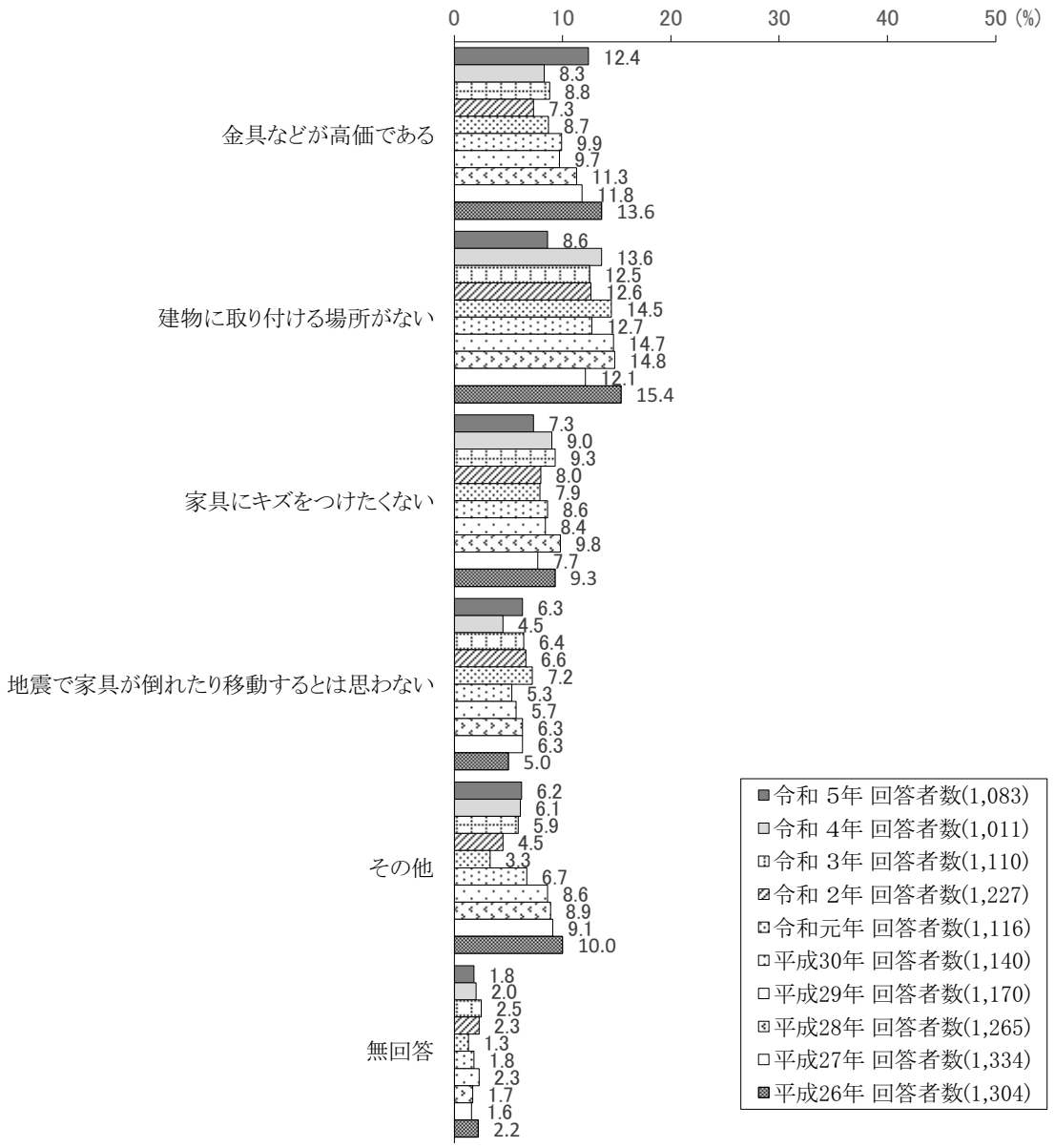


図２－５－１－②　経年比較／対策をしていない理由



イ　クロス集計・住居形態別／対策をしていない理由／上位８項目

（ア）対策をしていない理由（住宅の戸建て集合別）

a 〈一戸建て（計)〉の方が高くなっている項目

「面倒である」、「手が届かないなど、手助けがないと取り付けができない」

b 〈集合住宅（計)〉の方が高くなっている項目

「(賃貸のため）勝手に取り付けられない」、「建物の壁にキズをつけたくない」など

（イ）対策をしていない理由（住宅の所有形態別）

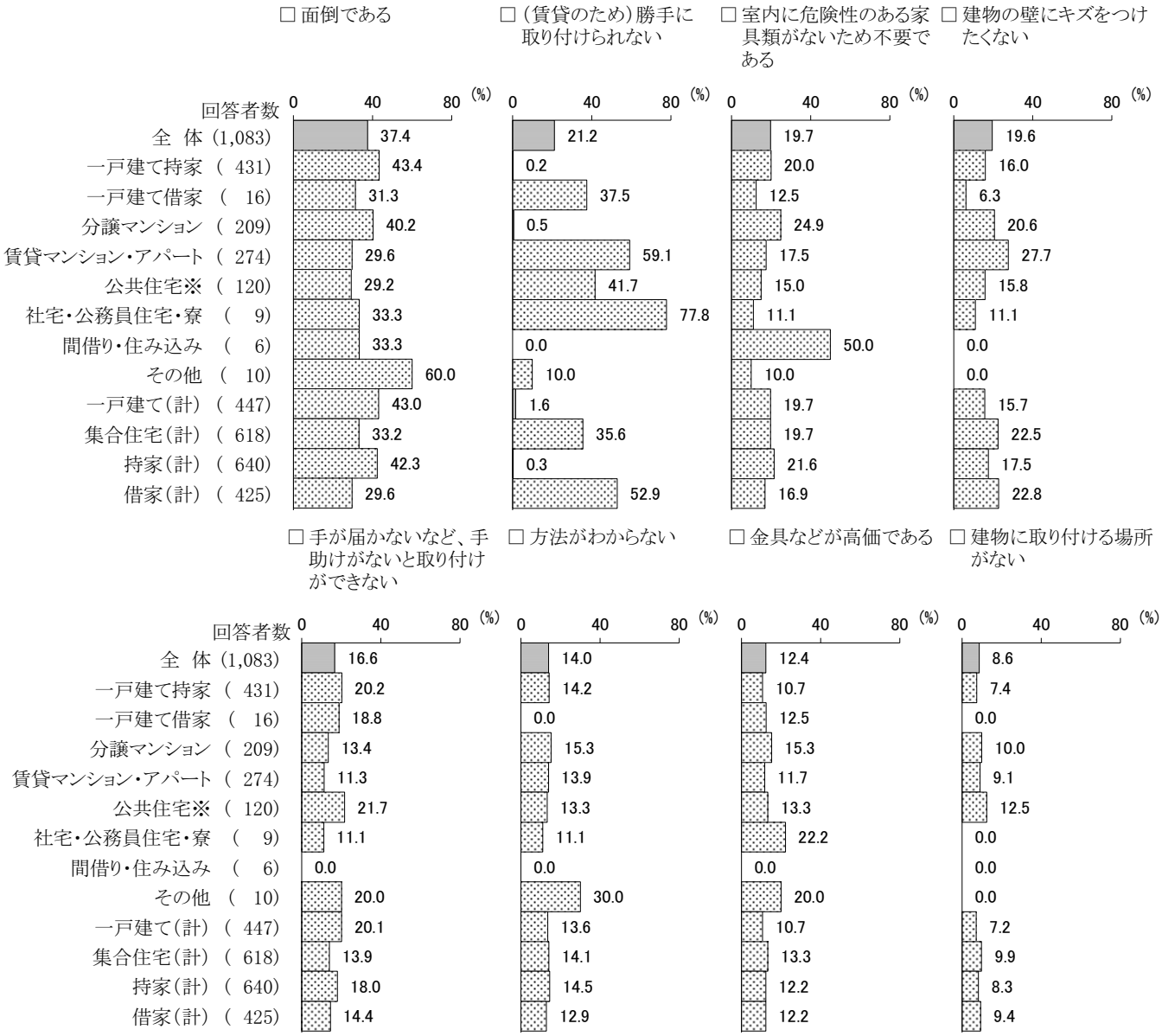
a 〈持家（計)〉の方が高くなっている項目

「面倒である」、「手が届かないなど、手助けがないと取り付けができない」など

b 〈借家（計)〉の方が高くなっている項目

「(賃貸のため）勝手に取り付けられない」、「建物の壁にキズをつけたくない」など

図２－５－２　住居形態別／対策をしていない理由／上位８項目



※「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。

※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値。

（６）地域の３種の避難場所とその意味の認知

問６　大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなたの地域の避難場所とその意味を知っていますか（○はそれぞれ１つずつ）。

■「知っている」は【避難場所】の〈場所〉が最高（36.5%）、【第一次避難所】の〈意味〉が最低（16.0%）

ア【一時集合場所】とは、大地震など、災害が発生した場合に、避難場所（区内に32カ所）や避難所（区内の小・中学校や福祉施設）に集団で避難するために、町会・自治会単位で一時的に集まる場所です。
イ【避難場所】とは、大地震などで延焼火災が発生した場合、大火から身を守るために避難する場所です。
ウ【第一次避難所】とは、自宅が倒壊・焼失等で生活が出来ない場合、生活する場所です。第一次避難所は、区立の小中学校、都立高校などが指定されており、災害発生時には、避難所近隣の町会・自治会を中心とした避難所運営本部により開設されます。

ア　単純集計・経年比較／地域の３種の避難場所とその意味の認知

（ア）地域の３種の避難場所の場所を「知っている」の割合は、「イ　避難場所」が36.5%で最も高く、「ア　一時集合場所」（32.8%）、「ウ　第一次避難所」（22.2%）の順となっている。

（イ）地域の３種の避難場所の意味を「知っている」の割合は、「イ　避難場所」が25.4%で最も高く、「ア　一時集合場所」（21.9%）、「ウ　第一次避難所」（16.0%）の順となっている。

（ウ）いずれの項目も「意味」より「場所」の認知割合が高くなっており、その差が大きい順に、「イ　避難場所」（11.1ポイント）、「ア　一時集合場所」（10.9ポイント）、「ウ　第一次避難所」（6.2ポイント）となっている。

（エ）前回調査と比較すると、＜意味＞を「知らない」の増加が目立ち、「ア　一時集合場所」が＋9.1ポイント、「イ　避難場所」が＋10.1ポイント、「ウ　第一次避難所」が＋10.2ポイントなどとなっている。

図２－６－１－①　経年比較／地域の３種の避難場所とその意味の認知

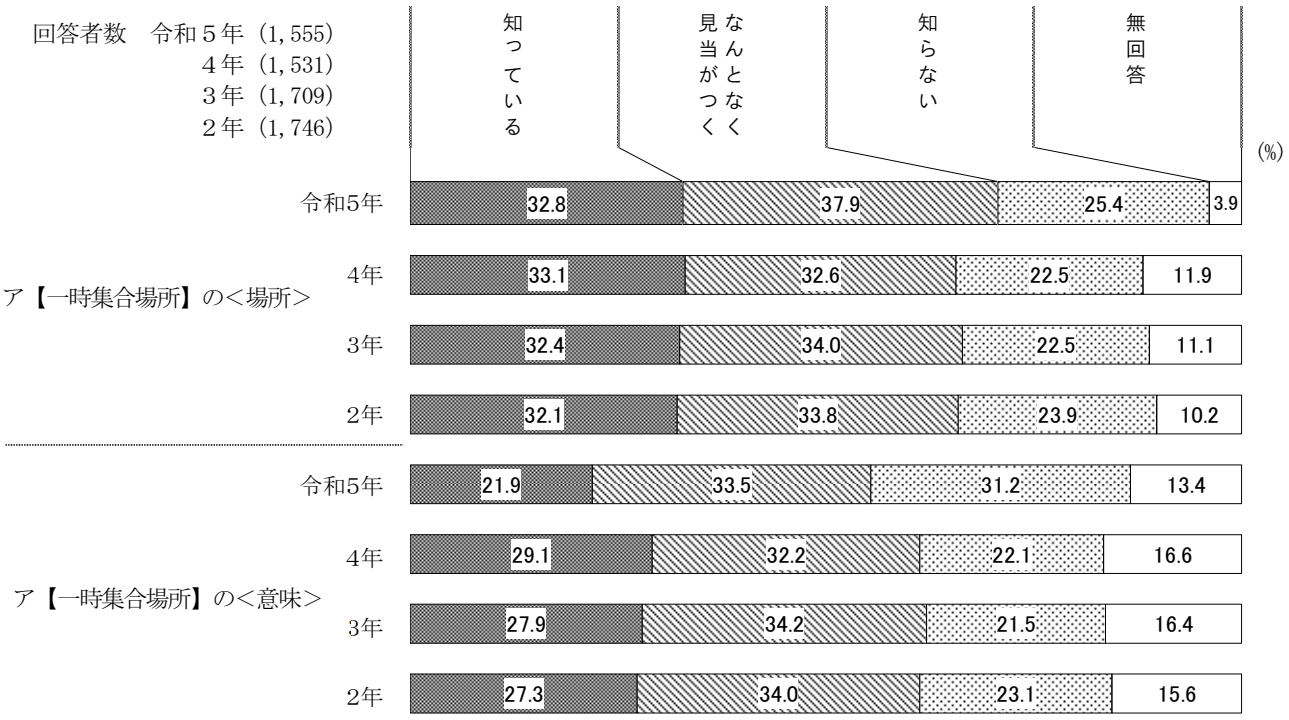
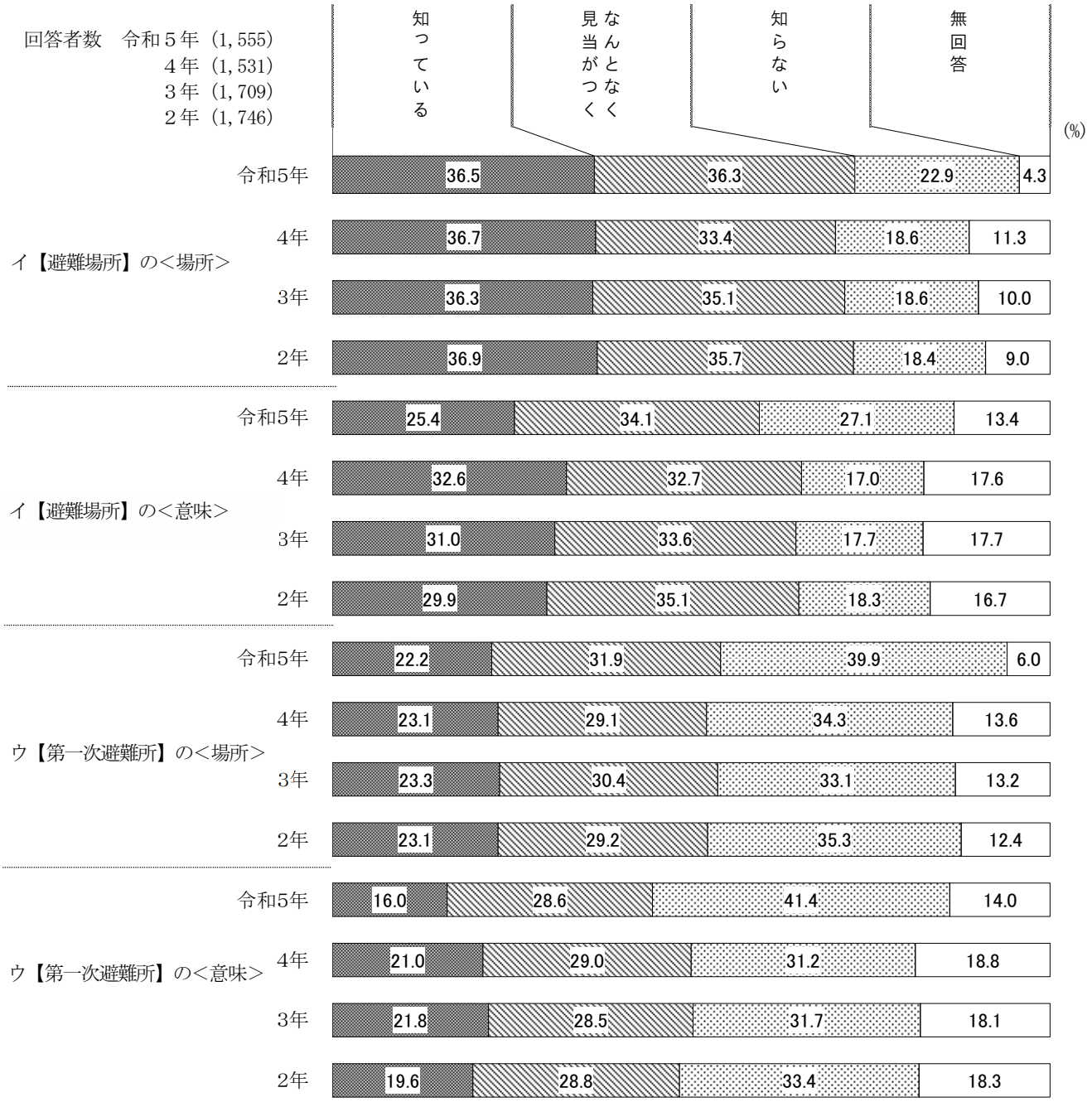
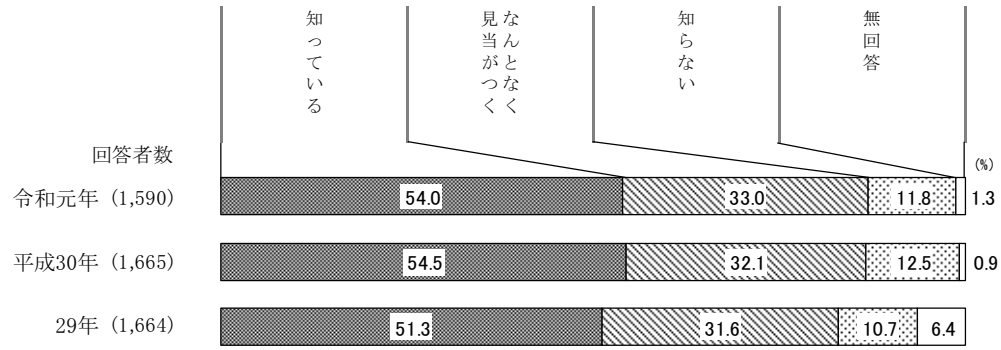


図２－６－１－②　経年比較／地域の３種の避難場所とその意味の認知



参考／地域の避難場所の認知

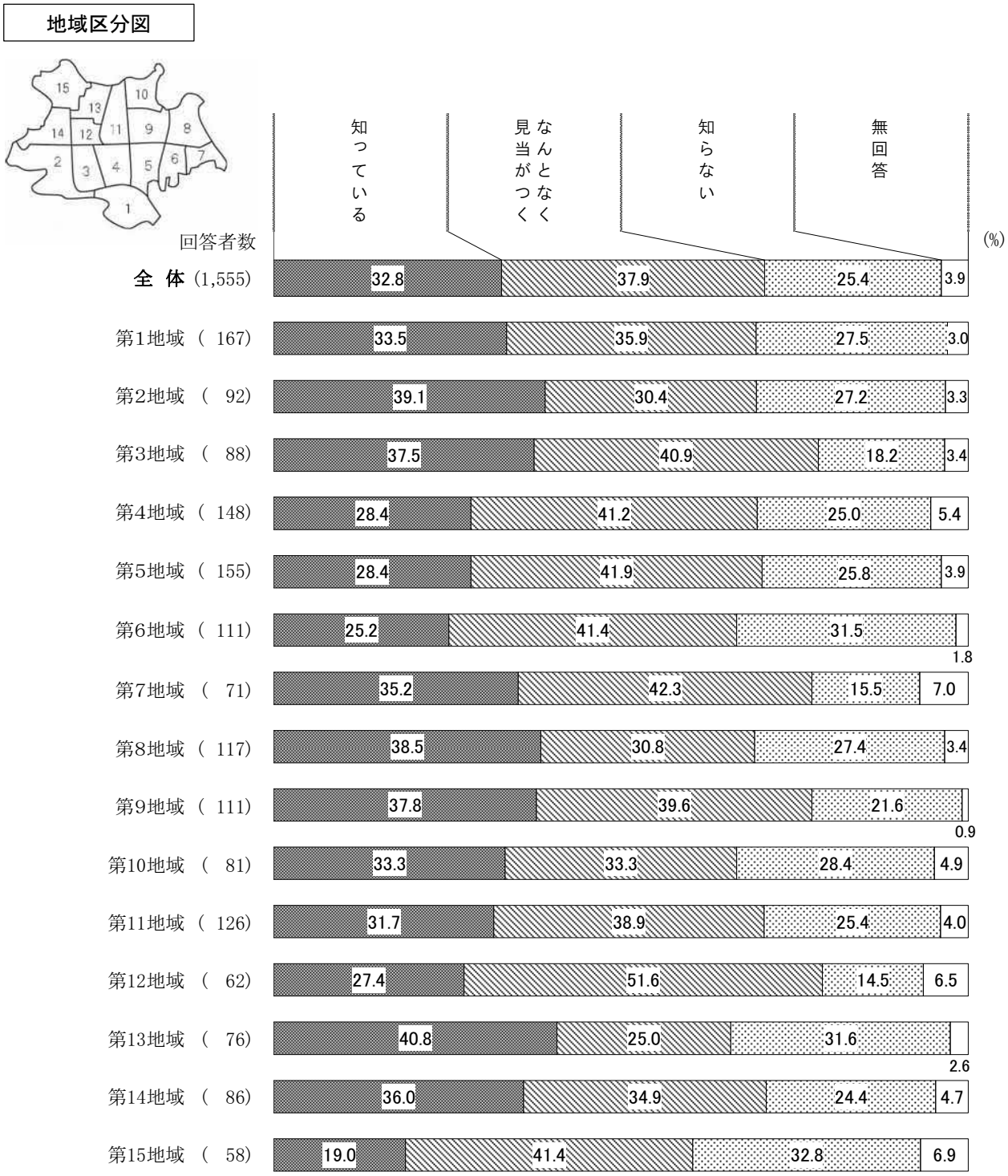
問　大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、あなたの地域の避難場所を知っていますか（○は１つだけ）。



イ　クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の＜場所＞」の認知

「ア【一時集合場所】の＜場所＞」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第13地域が40.8％で最も高く、次いで、第２地域（39.1％）となっている。一方、第15地域が19.0％で最も低く、次いで第６地域（25.2％）となっている。

図２－６－２－①　地域別／「ア【一時集合場所】の＜場所＞」の認知

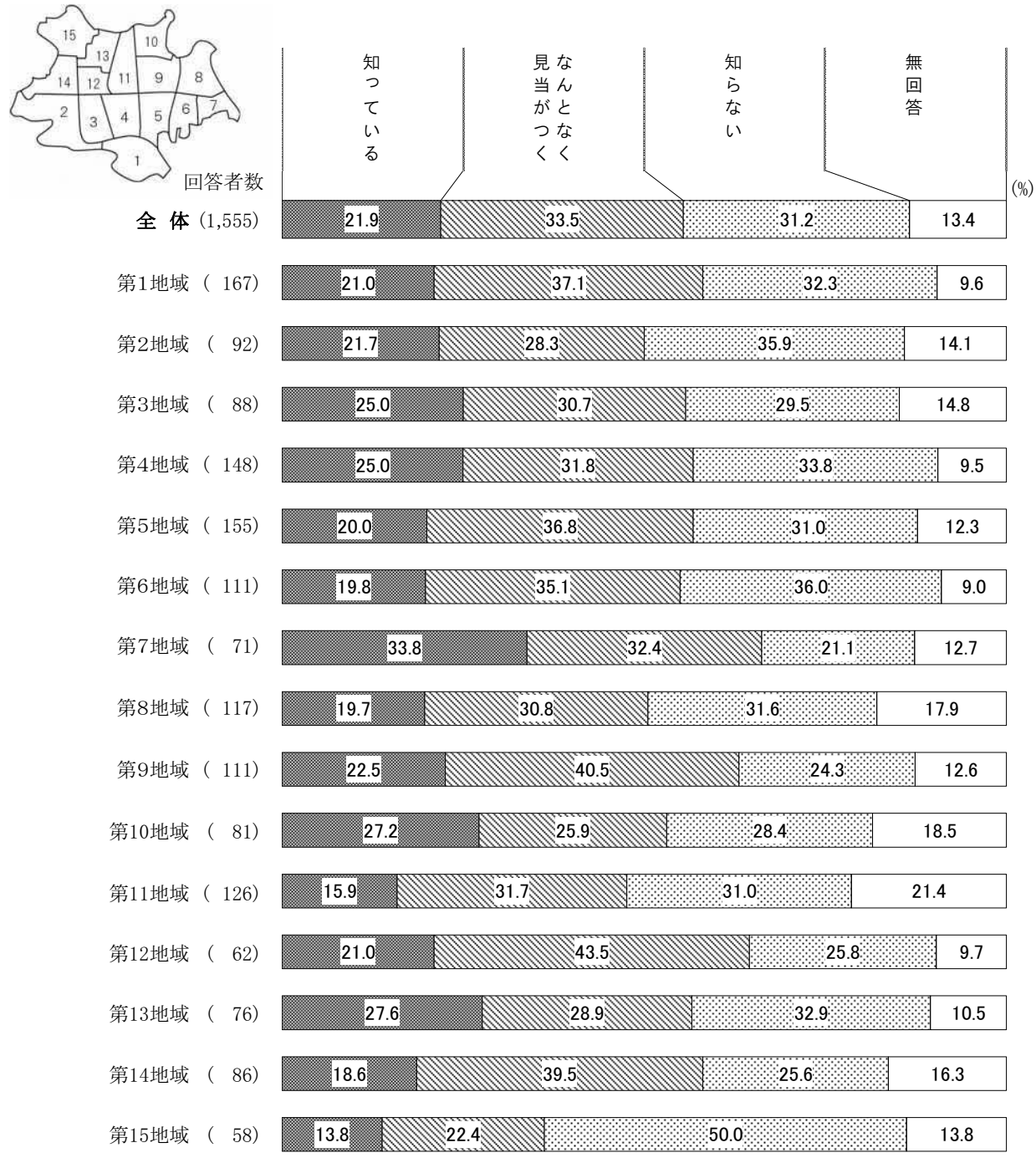


ウ　クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の＜意味＞」の認知

「ア【一時集合場所】の＜意味＞」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第７地域が33.8％で最も高く、次いで第13地域（27.6％）となっている。一方、第15地域が13.8％で最も低く、次いで第11地域（15.9％）となっている。

図２－６－２－②　地域別／「ア【一時集合場所】の＜意味＞」の認知

地域区分図

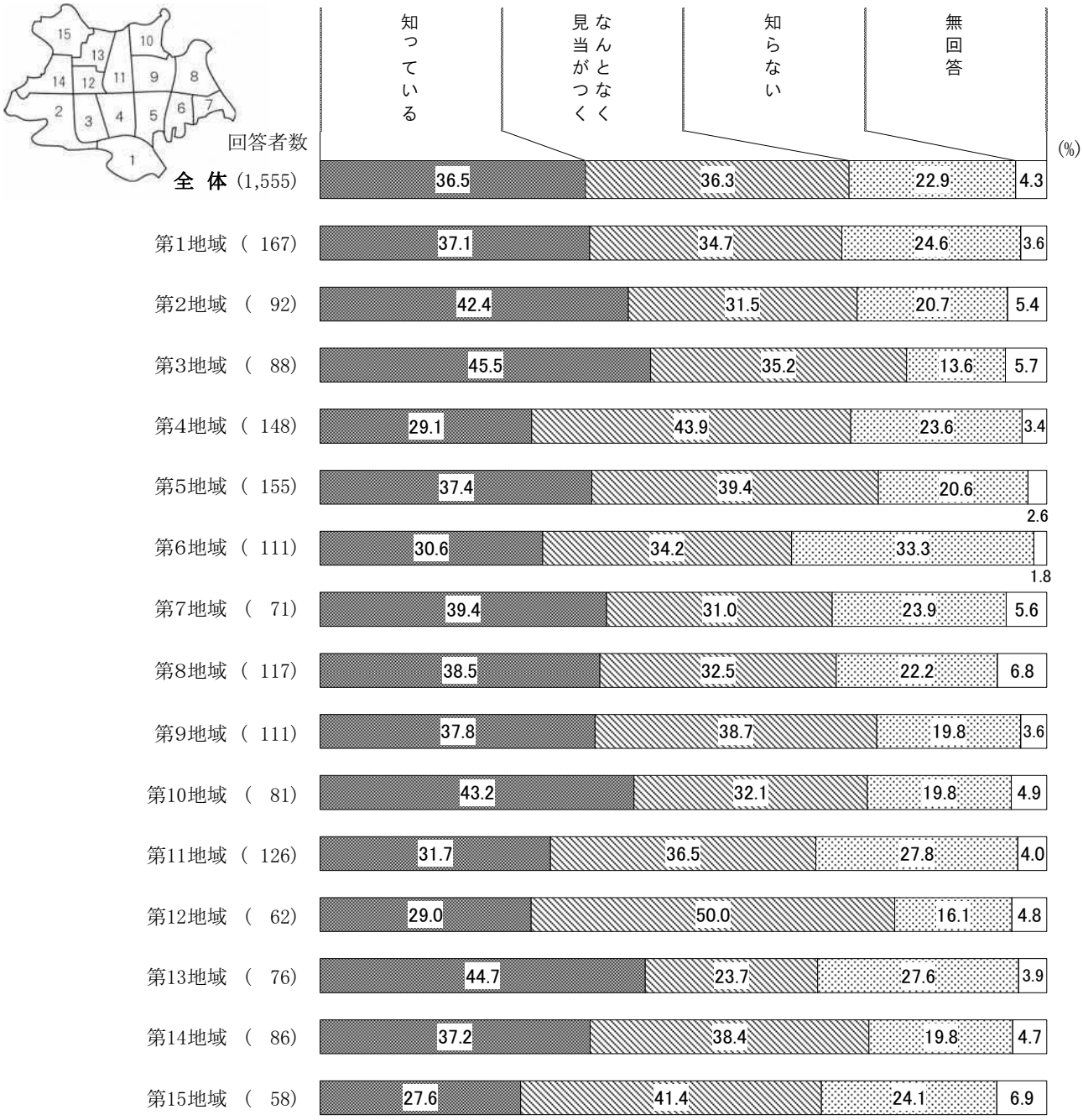


エ　クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の＜場所＞」の認知

「イ【避難場所】の＜場所＞」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第３地域が45.5％で最も高く、次いで第13地域（44.7％）となっている。一方、第15地域が27.6％で最も低く、次いで第12地域（29.0％）となっている。

図２－６－２－③　地域別／「イ【避難場所】の＜場所＞」の認知

地域区分図

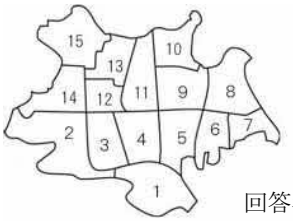


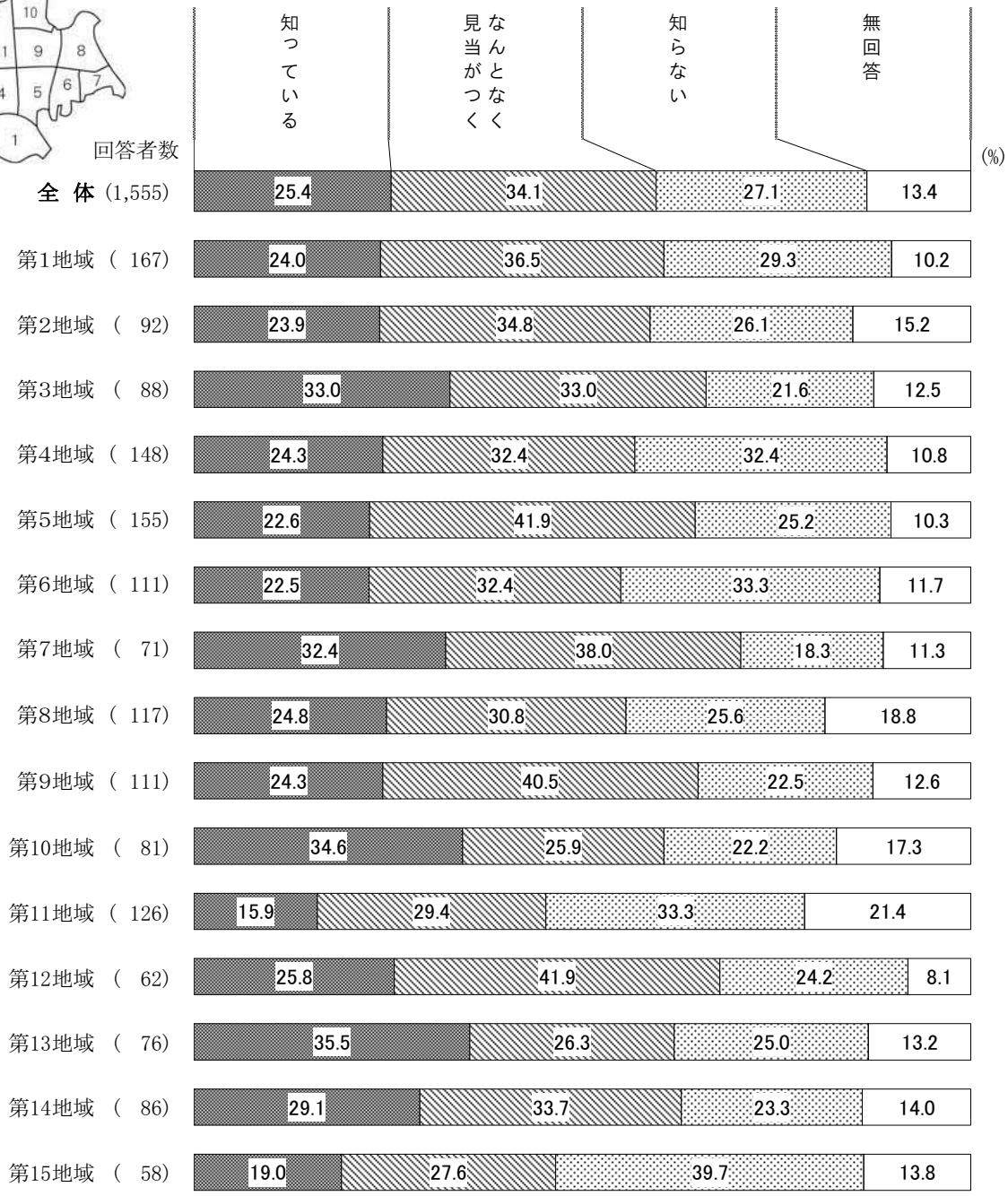
オ　クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知

「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第13地域が35.5％で最も高く、次いで第10地域（34.6％）となっている。一方、第11地域が15.9％で最も低く、次いで第15地域（19.0％）となっている。

図２－６－２－④　地域別／「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知

地域区分図



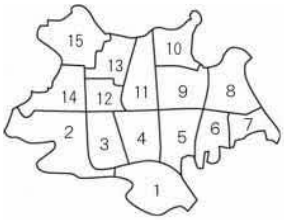


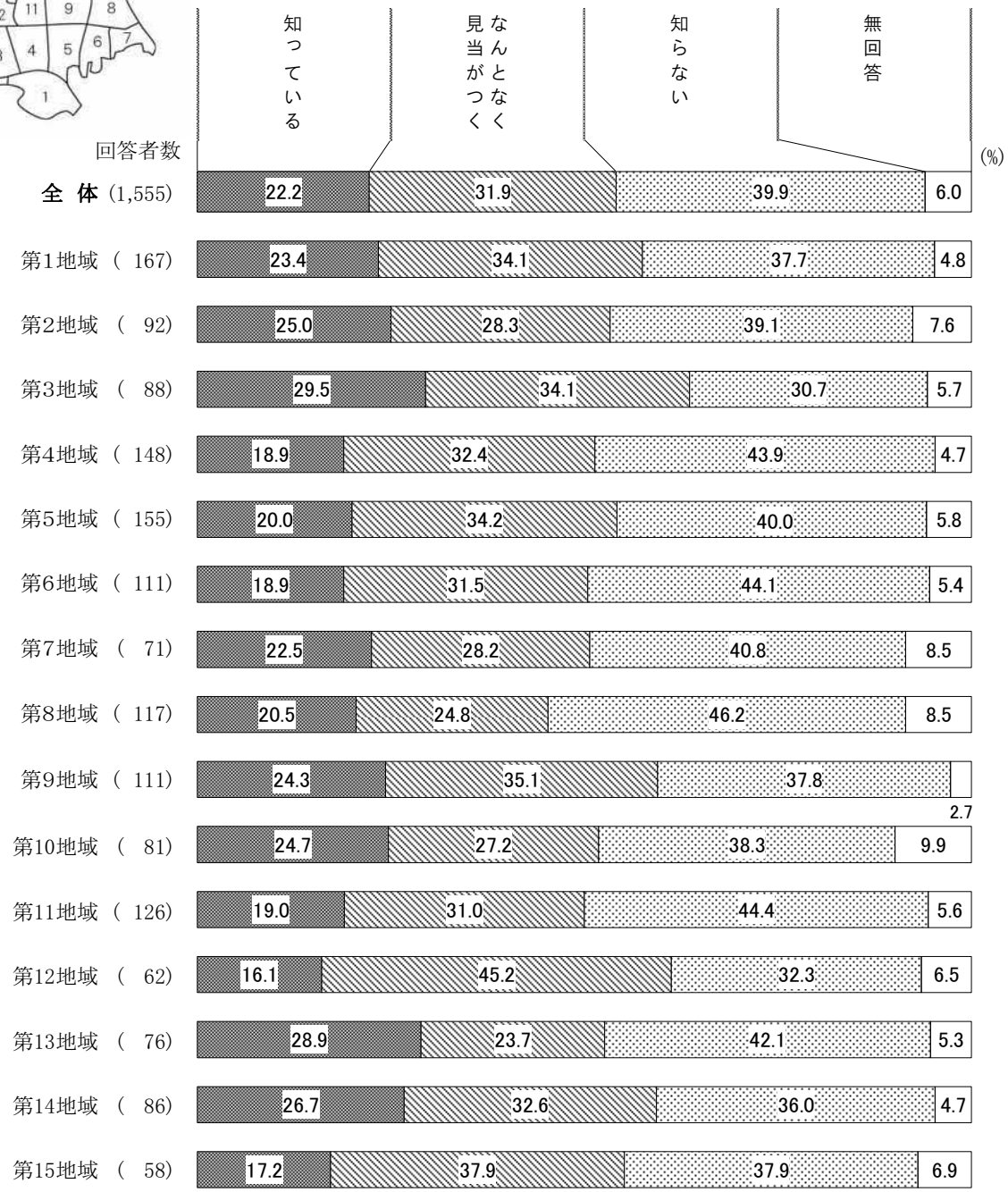
カ　クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の＜場所＞」の認知

「ウ【第一次避難所】の＜場所＞」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第３地域が29.5％と最も高く、次いで第13地域（28.9％）となっている。一方、第12地域が16.1％で最も低く、次いで第15地域（17.2％）となっている。

図２－６－２－⑤　地域別／「ウ【第一次避難所】の＜場所＞」の認知

地域区分図



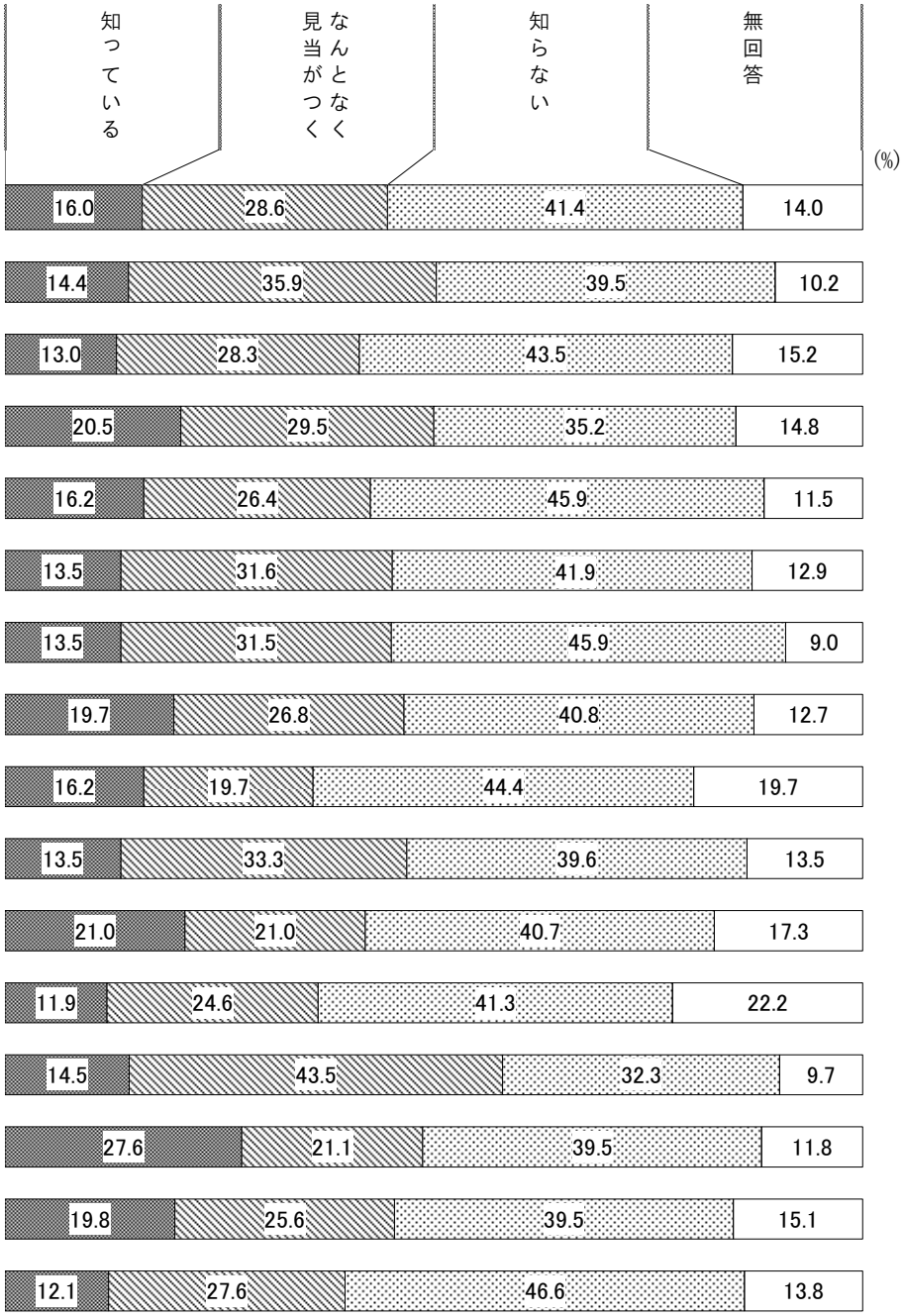


キ　クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の＜意味＞」の認知

「ウ【第一次避難所】の＜意味＞」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第13地域が27.6％で最も高く、次いで第10地域（21.0％）となっている。一方、第11地域が11.9％で最も低く、次いで第15地域（12.1％）となっている。

図２－６－２－⑥　地域別／「ウ【第一次避難所】の＜意味＞」の認知

地域区分図



（７）大規模災害時の避難生活場所

問７　大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は１つだけ）。

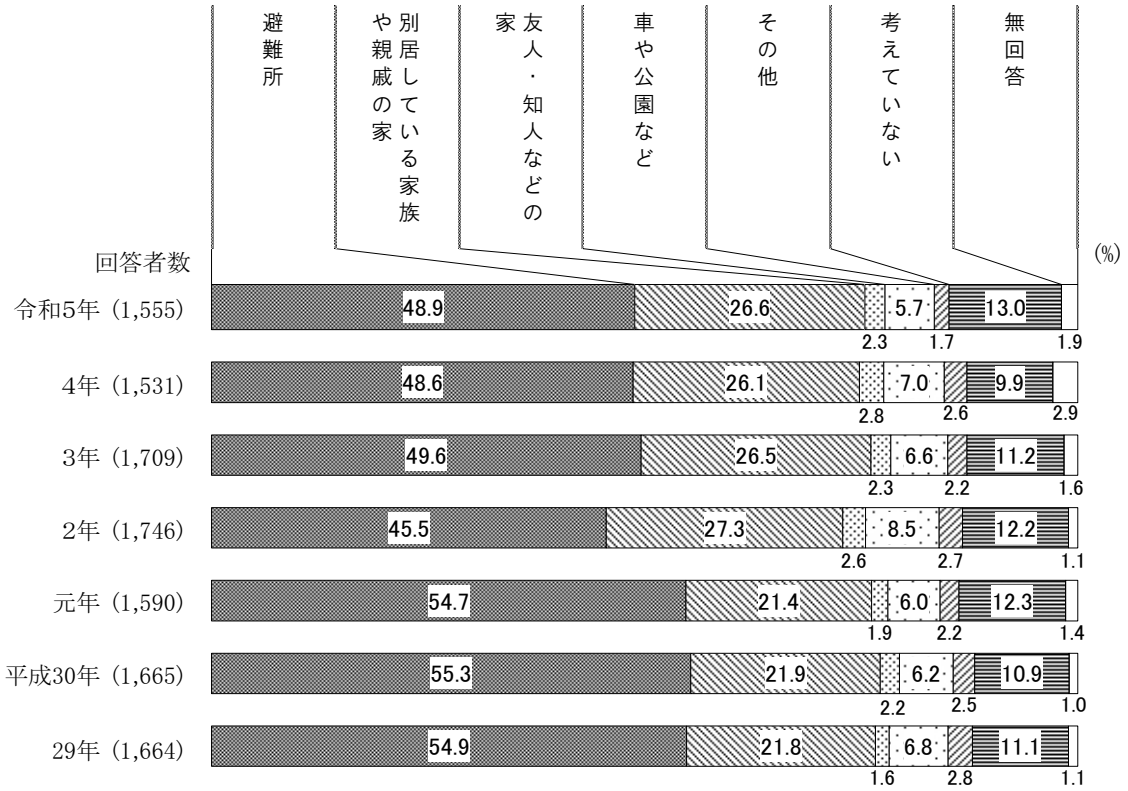
■「避難所」が５割弱で最も高く、他の項目を含めてこの３年間に割合の変化はない

ア　単純集計・経年比較／大規模災害時の避難生活場所

（ア）大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が48.9％で最も高く、次いで「別居している家族や親戚の家」（26.6％）となっている。

（イ）前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

図２－７－１　経年比較／大規模災害時の避難生活場所



イ　クロス集計・地域別／大規模災害時の避難生活場所

地域別でみると、「避難所」は第９地域（62.2%）で最も高く、次いで第10地域（55.6%）となっている。「別居している家族や親戚の家」は第13地域（34.2%）、「車や公園など」は第８地域（13.7%）で最も高くなっている。一方、「考えていない」は第３地域（20.5%）で最も高く、第９地域（5.4%）で最も低くなっている。

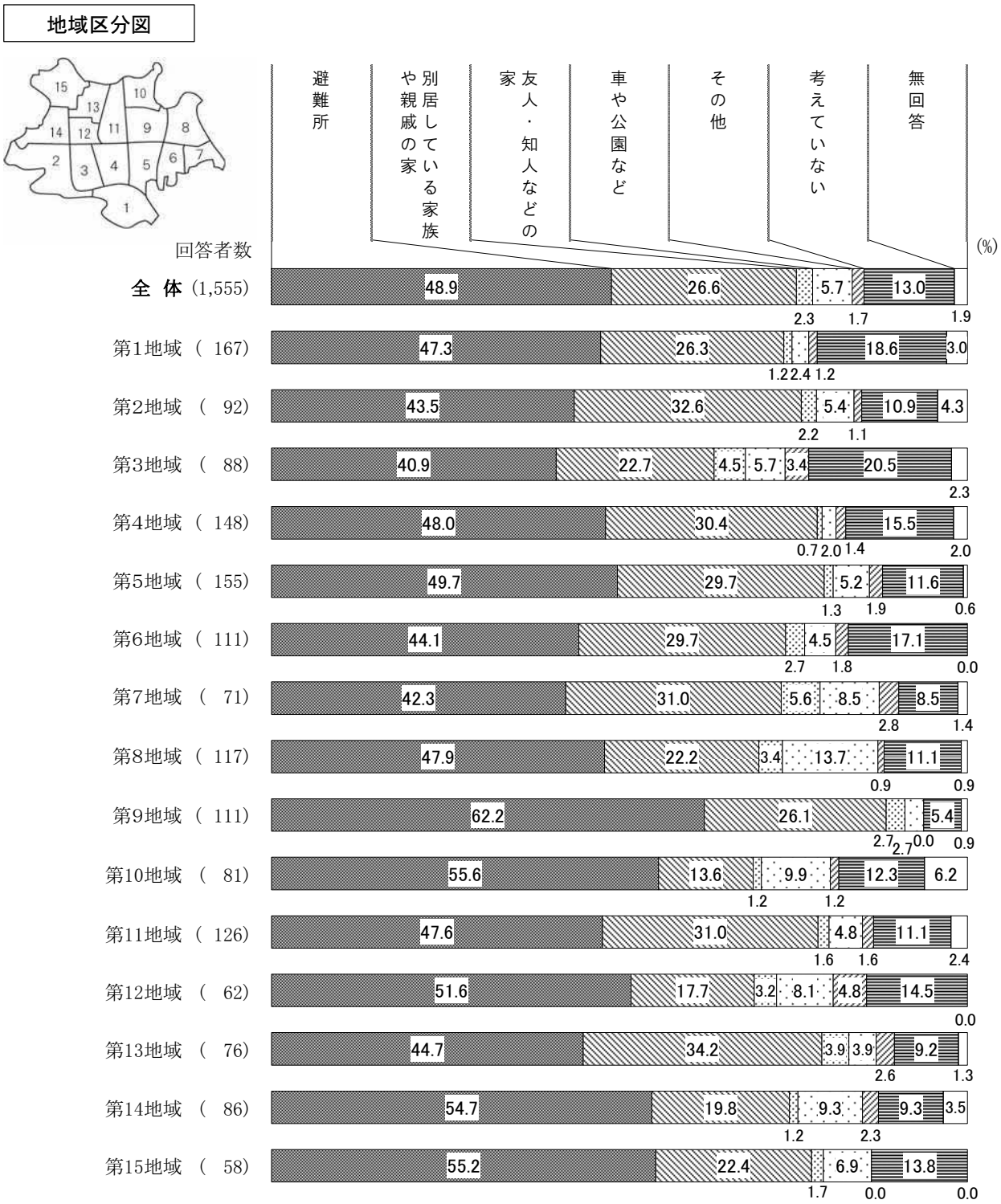



図２－７－２　地域別／大規模災害時の避難生活場所